

## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 災害発生時の水や食料の確保
  - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
  - (6) 対策をしていない理由
  - (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
  - (8) 避難場所の認知経路
  - (9) 大規模災害時の避難生活場所
  - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-



## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は4人に3人の割合

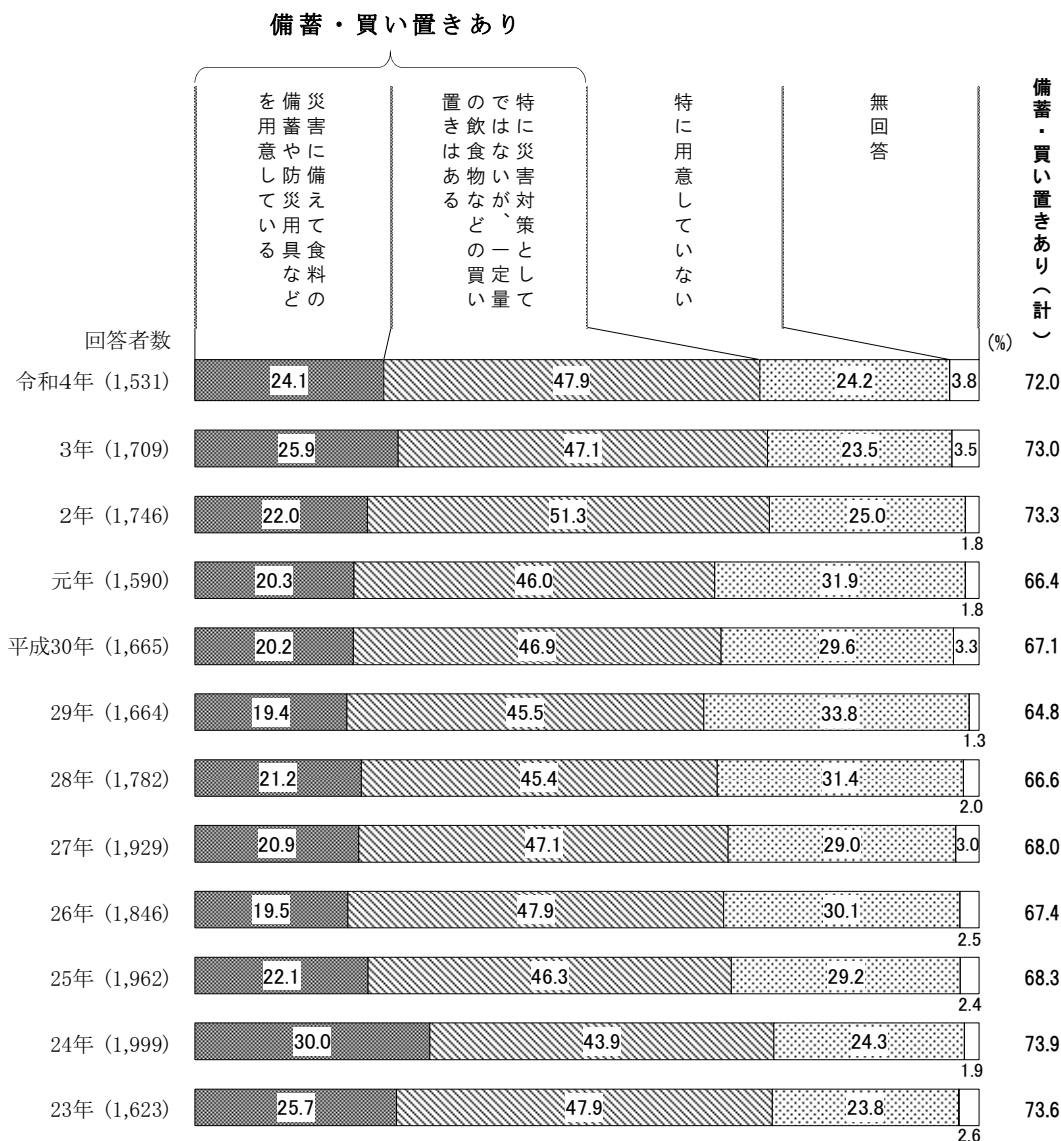
#### ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.9%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が24.1%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は72.0%となっている。

(イ) 災害に備えて「特に用意していない」は24.2%となっている。

(ウ) 経年でみると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査に比べて大きな違いはみられないものの、前々回調査から漸減している。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



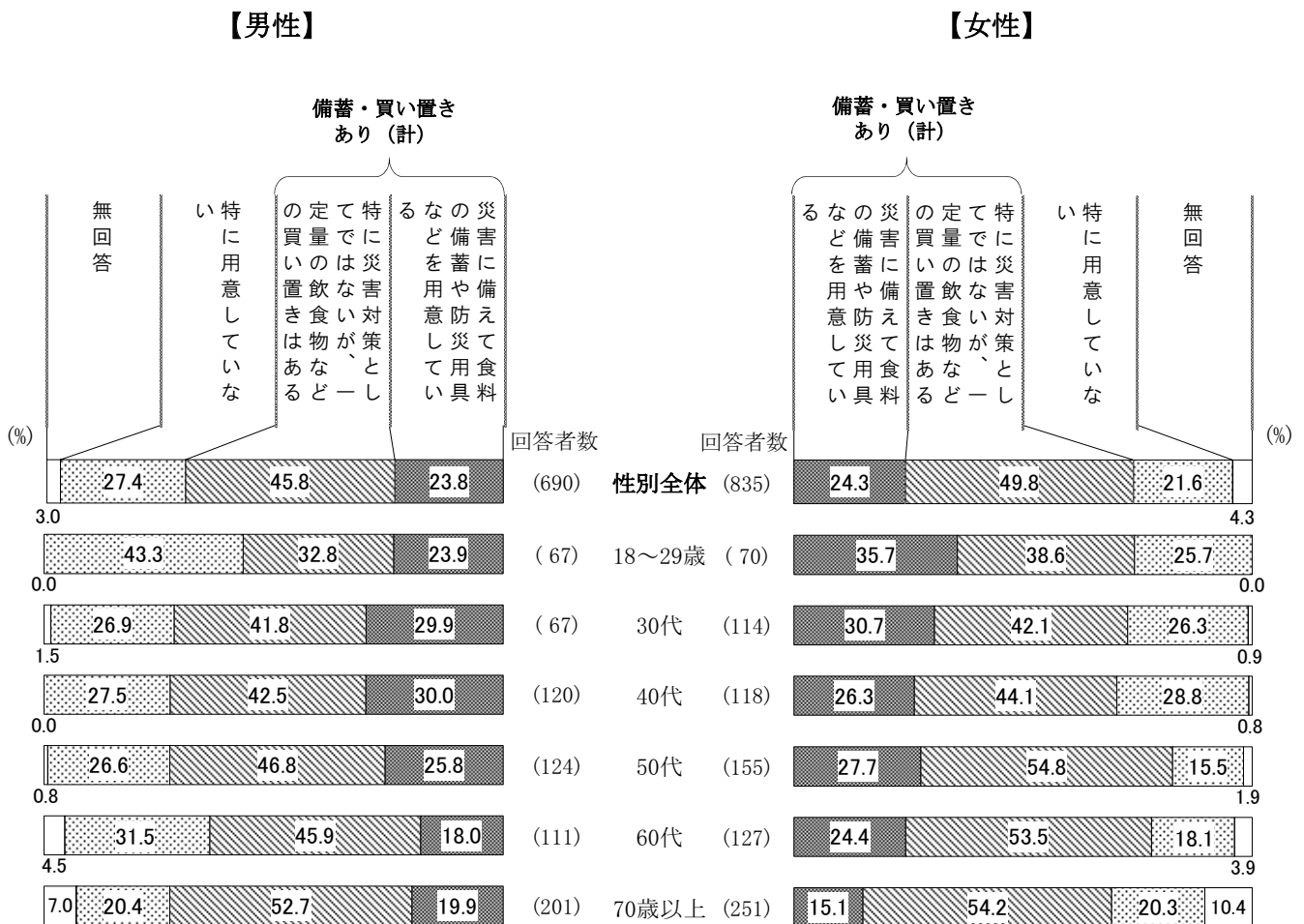
イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（74.1%）の方が男性（69.6%）より4.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の18～29歳が35.7%で最も高く、次いで女性の30代（30.7%）となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の50代が82.6%で最も高く、次いで女性の60代（78.0%）となっている。

(ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、男性の18～29歳が43.3%で最も高くなっている。

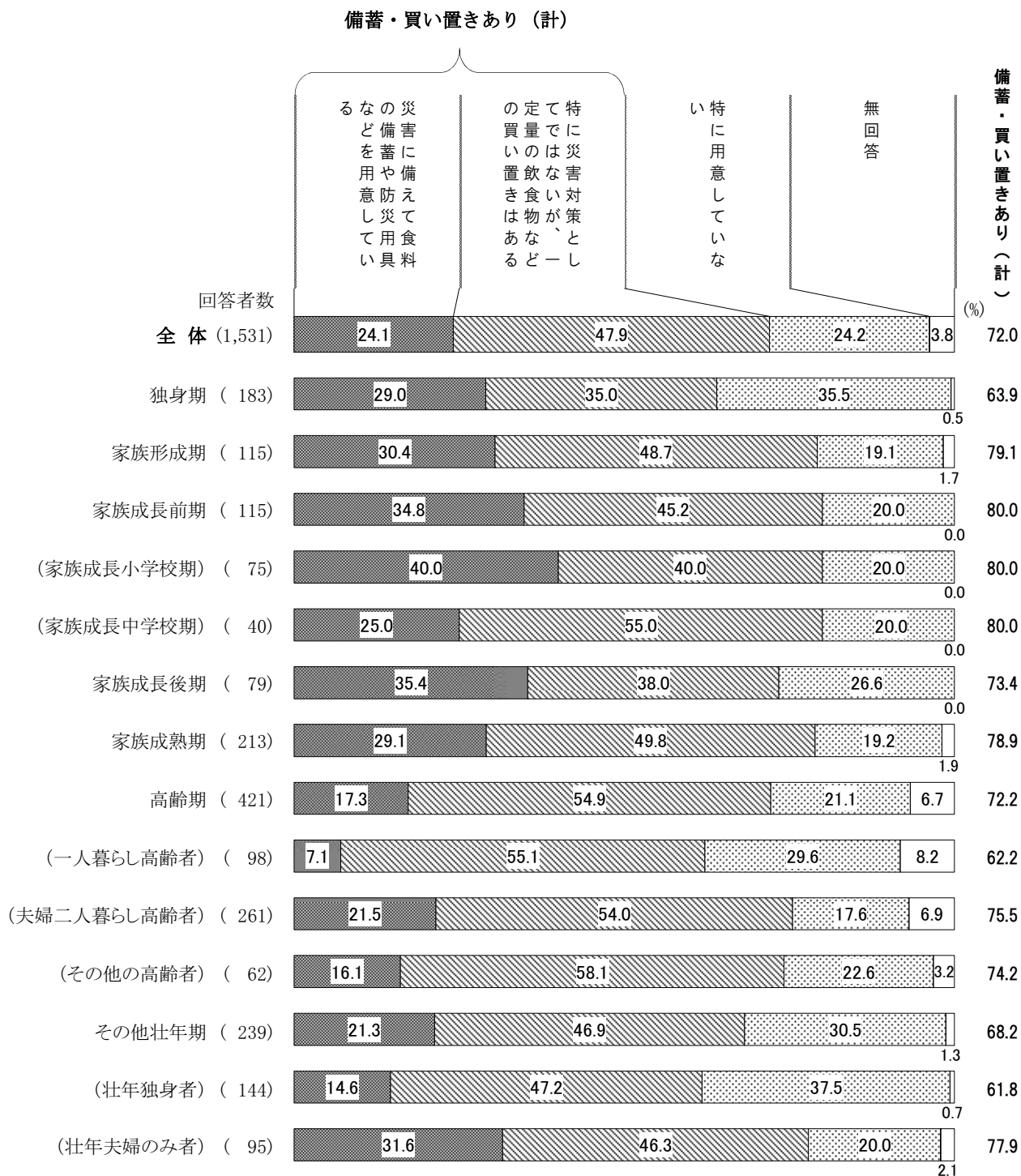
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長前期〉が80.0%で最も高く、次いで〈家族形成期〉(79.1%)、〈家族成熟期〉(78.9%)となっている。なお、詳細区分で見ると、〈(家族成長小学校期)〉と〈(家族成長中学校期)〉がともに80.0%と高くなっている。一方、〈独身期〉が63.9%で最も低いが、詳細区分で見ると〈(壮年独身者)〉が61.8%で最も低くなっている。

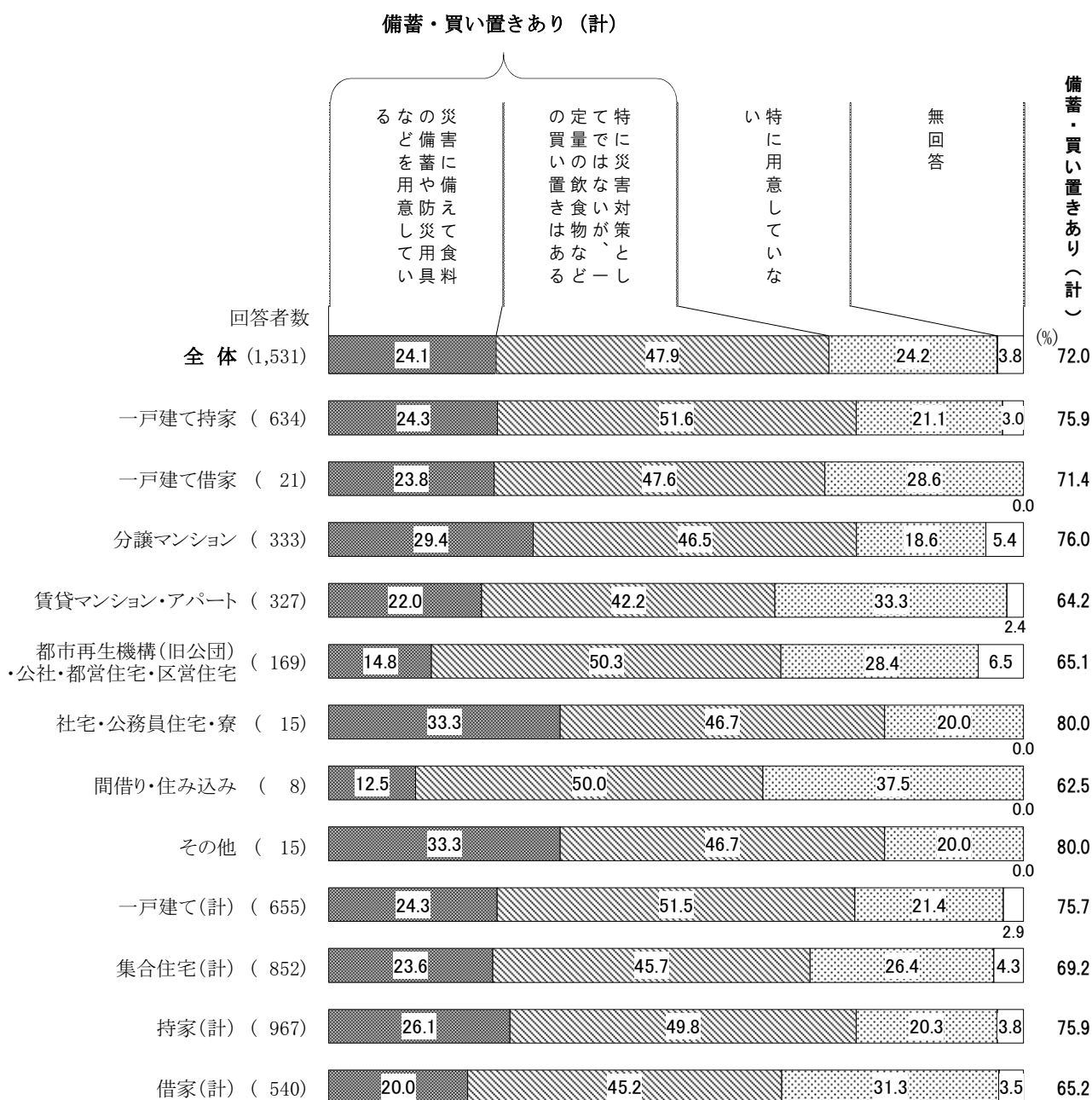
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

住居形態別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が76.0%で最も高く、僅差で〈一戸建て持家〉(75.9%)が続いている。住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て(計)〉(75.7%)の方が〈集合住宅(計)〉(69.2%)より6.5ポイント高く、住宅の所有形態別では、〈持家(計)〉(75.9%)の方が〈借家(計)〉(65.2%)より10.7ポイント高くなっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が33.3%で最も高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。

■ 1位「水」（9割強）、2位「食料」（9割）、3位「あかり」（8割）で前回調査と変わらず

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

（ア）【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ①「水」（91.4%）
- ②「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」（90.0%）
- ③「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（79.9%）
- ④「電池・予備バッテリー」（55.5%）
- ⑤「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（50.5%）

（イ）平成25年調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が継続して上位3項目に挙げられている。

（ウ）前回の令和3年調査からの増減では、上位5項目についての増減では特に大きな違いはないが、「衣類」（27.4%→31.7%）が4.3ポイント増加、「医薬品（常備薬を含む）」は（47.8%→50.4%）が2.6ポイント増加している。逆に、「水の確保用品（ポリタンク、水袋など）」（31.3%→29.1%）が2.2ポイント減少している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

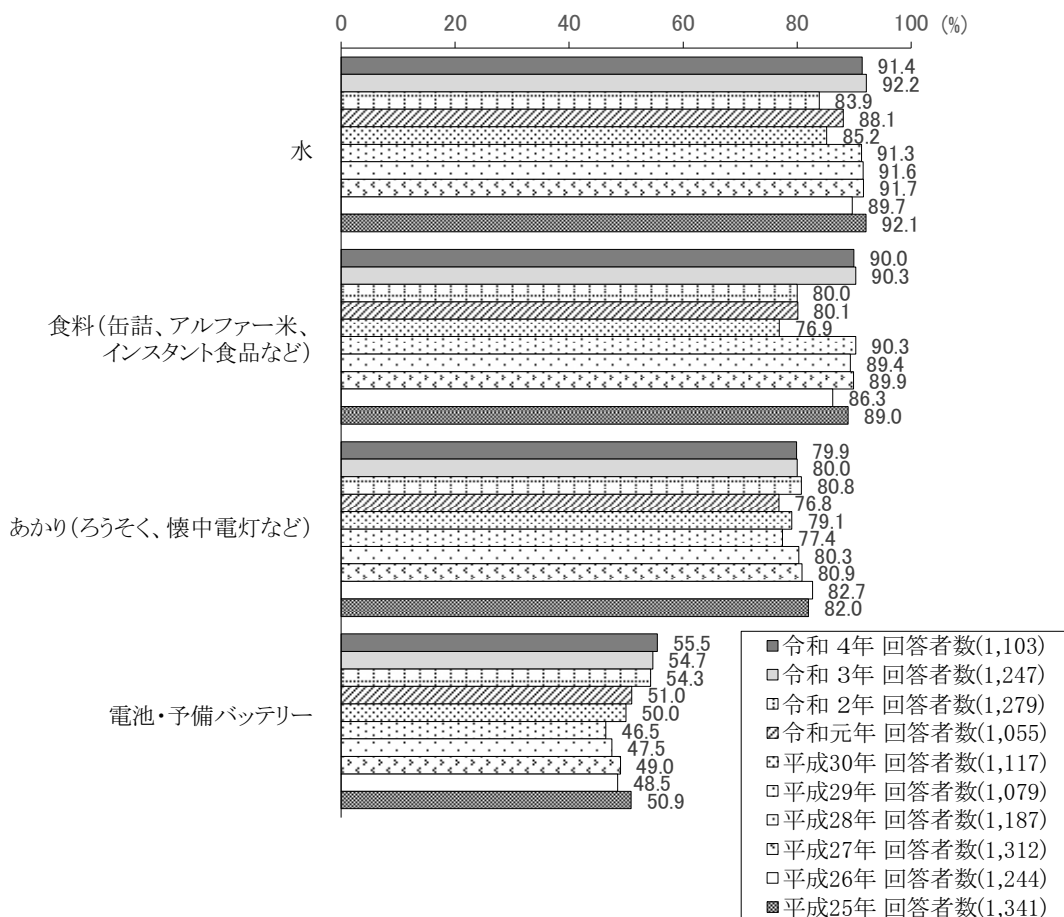


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

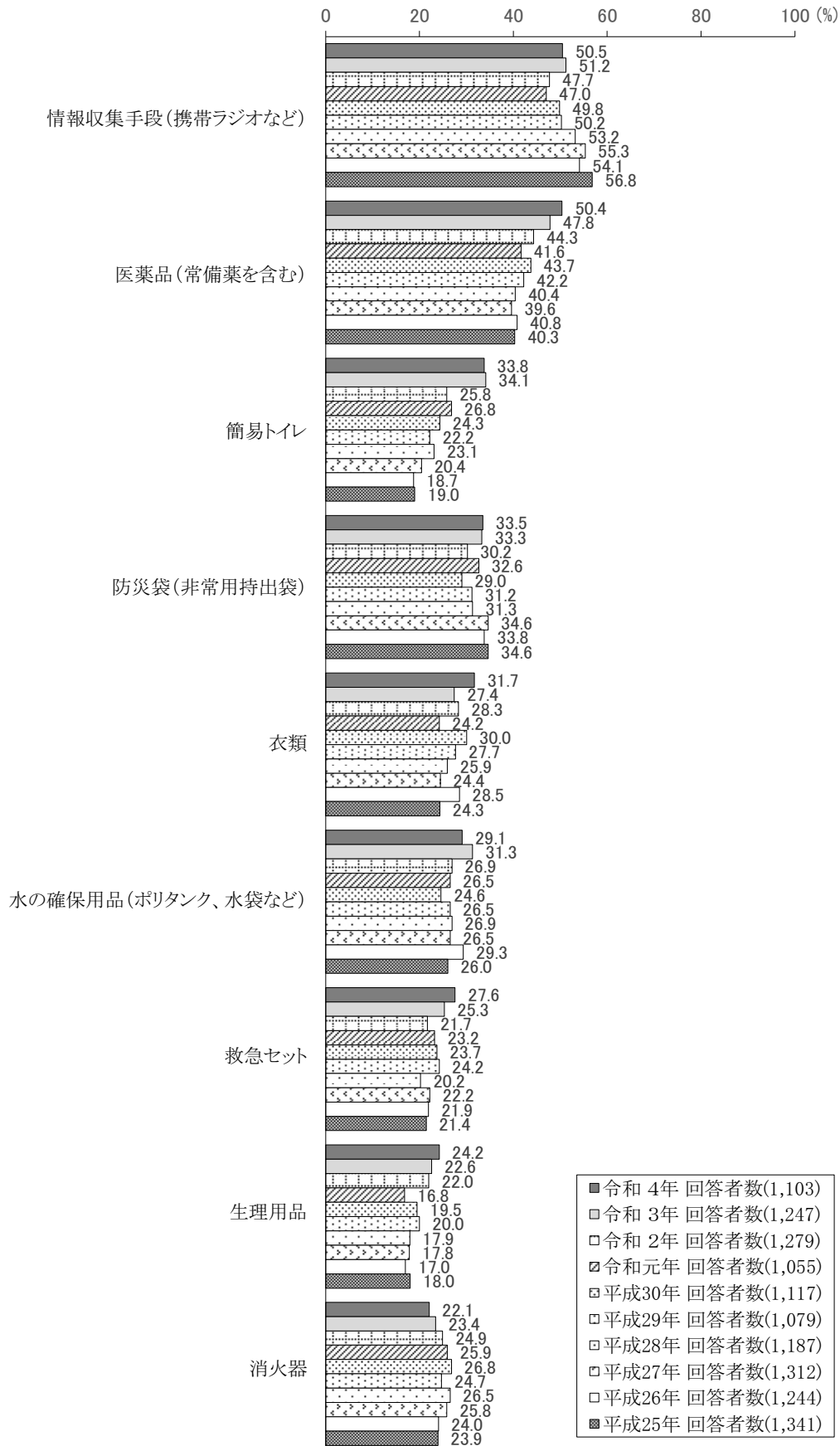
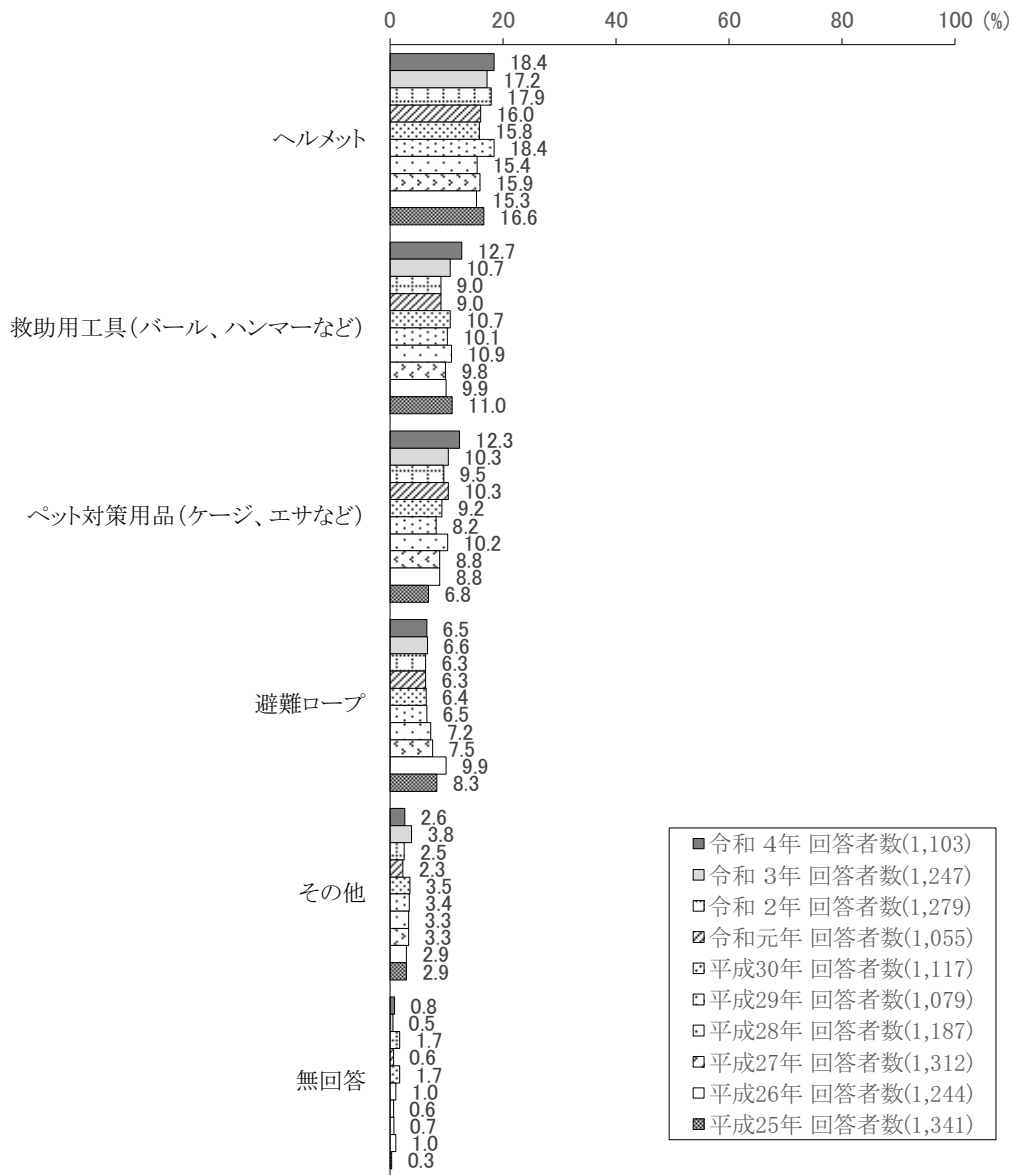




図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

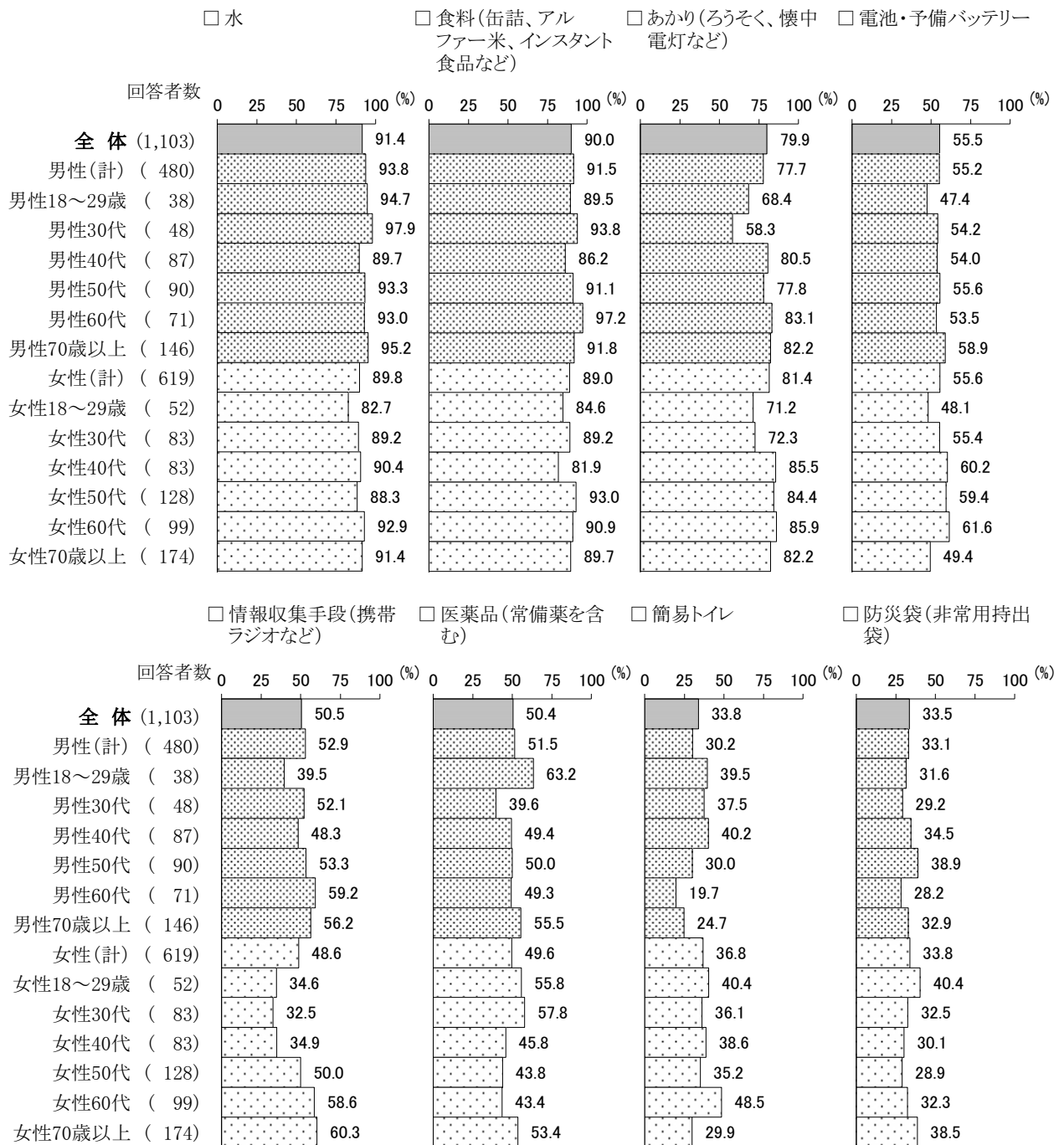


イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 上位項目を中心に性別で見ると、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（男性+4.3ポイント）、「水」（男性+4.0ポイント）では男性が女性より高く、逆に「簡易トイレ」（女性+6.6ポイント）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（女性+3.7ポイント）では女性が男性より高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「水」は男性の30代（97.9%）が最も高く、女性の18～29歳（82.7%）で最も低くなっている。「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は男性の60代（97.2%）が最も高く、女性の40代（81.9%）で最も低くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の60代（85.9%）が最も高く、男性の30代（58.3%）で最も低く、30ポイント近くの差となっている。

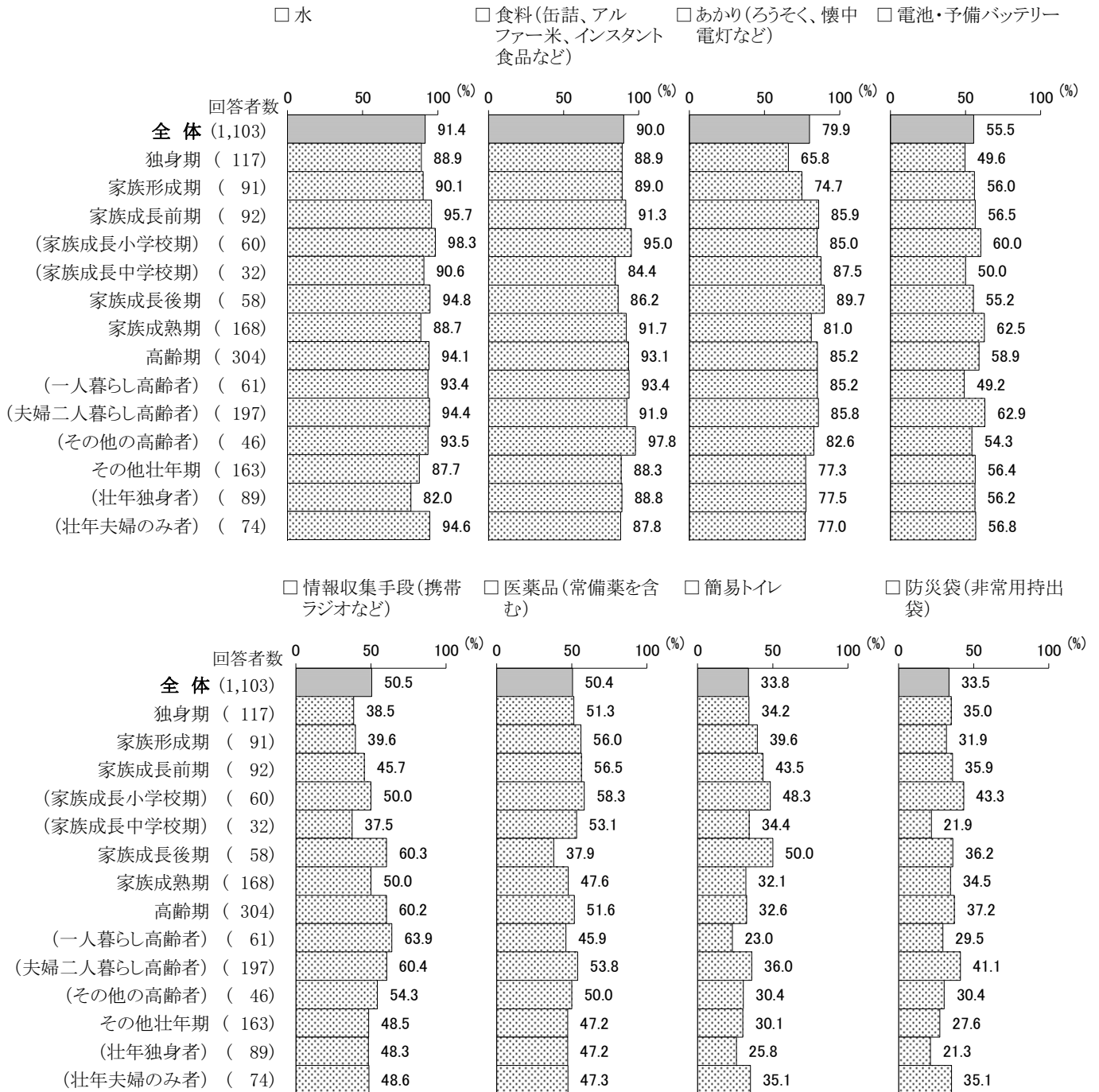
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長前期〉(95.7%)、「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」は〈高齢期〉(93.1%)、「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」は〈家族成長後期〉(89.7%)、「電池・予備バッテリー」は〈家族成熟期〉(62.5%)で他のステージに比べて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

問4-1で「1 水」または「2 食料」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。

「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です

(○はそれぞれ1つずつ)

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含まず。

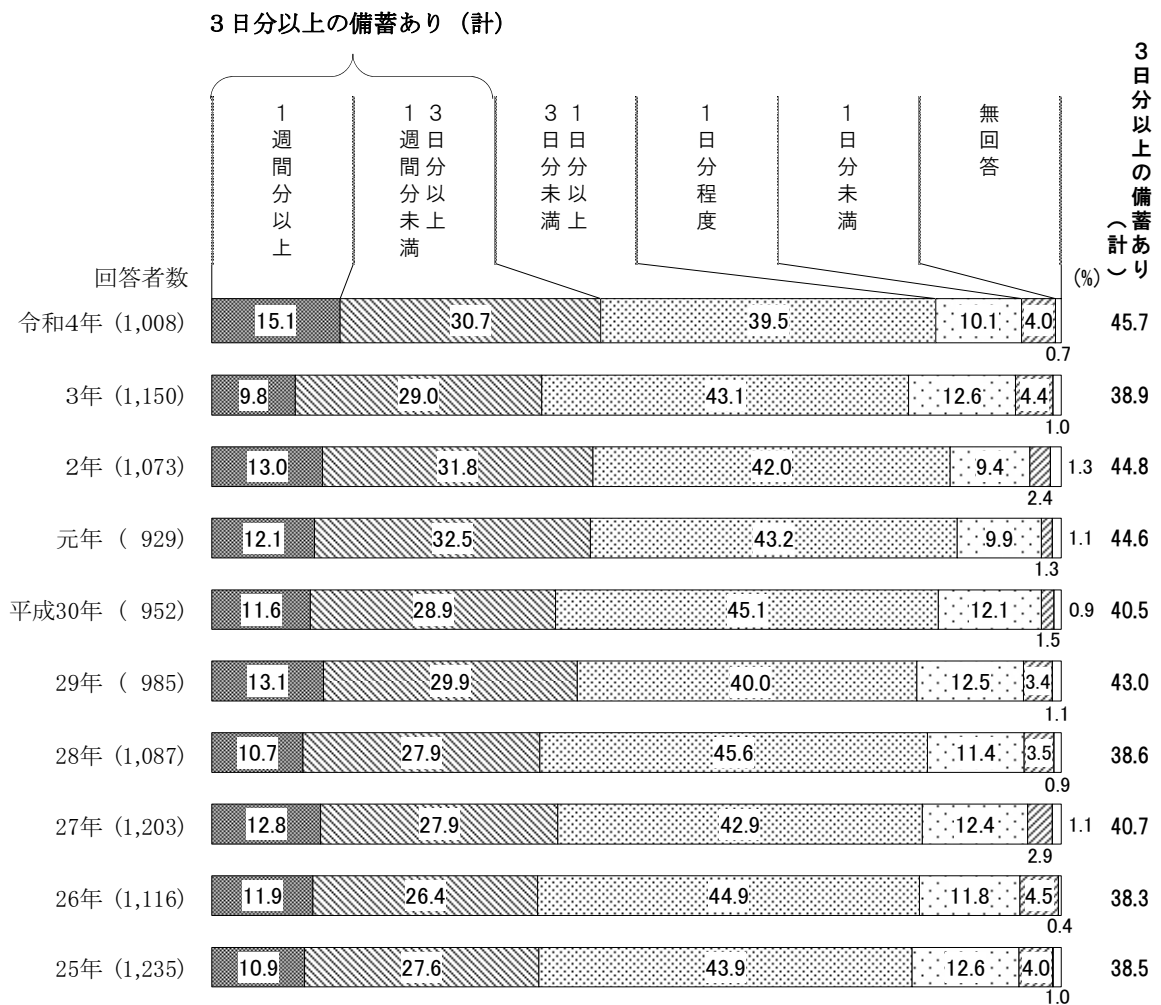
■ 「水」と「食料」の【3日分以上の備蓄あり】はともに4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が39.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(30.7%)となっている。

(イ) 経年で【3日分以上の備蓄あり】をみると、前回調査(38.9%)に比べて6.8ポイント増加しており、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水



イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

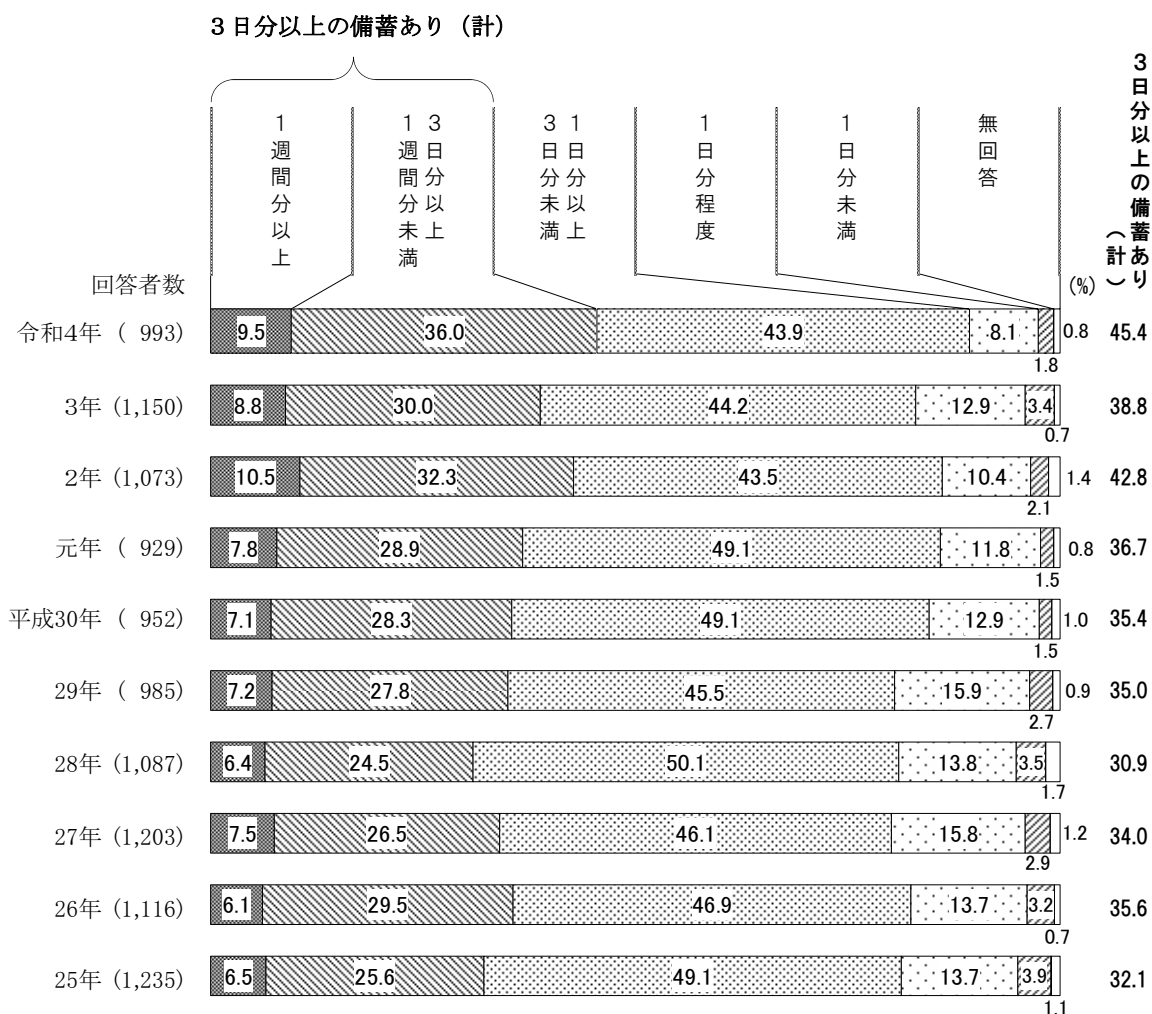
(ア)「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」の備蓄量については、高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「1日分以上3日分未満」(43.9%)
- ②「3日分以上1週間分未満」(36.0%)

また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は「水」(45.7%)と「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(45.4%)がともに4割台半ばと同様の割合となっている。

(イ)経年で食料についての【3日分以上の備蓄あり】をみると、前回調査(38.8%)に比べて6.6ポイント減少しており、水の備蓄量と同様に、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。

図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料

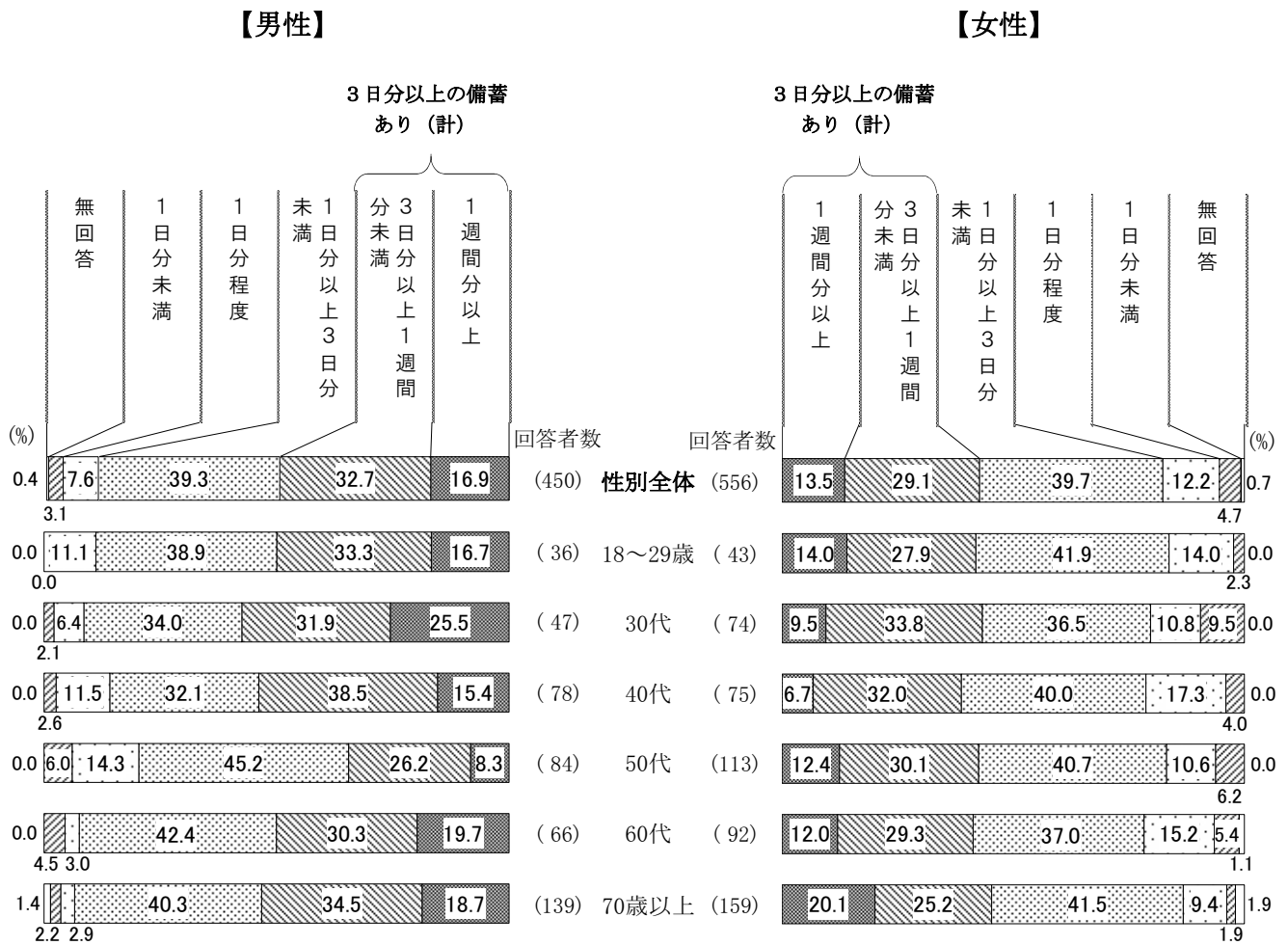


ウ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（49.6%）の方が女性（42.6%）より7.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が57.4%で最も高く、次いで男性の40代（53.8%）となっている。逆に、男性の50代が34.5%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の30代が9.5%で最も高くなっている。

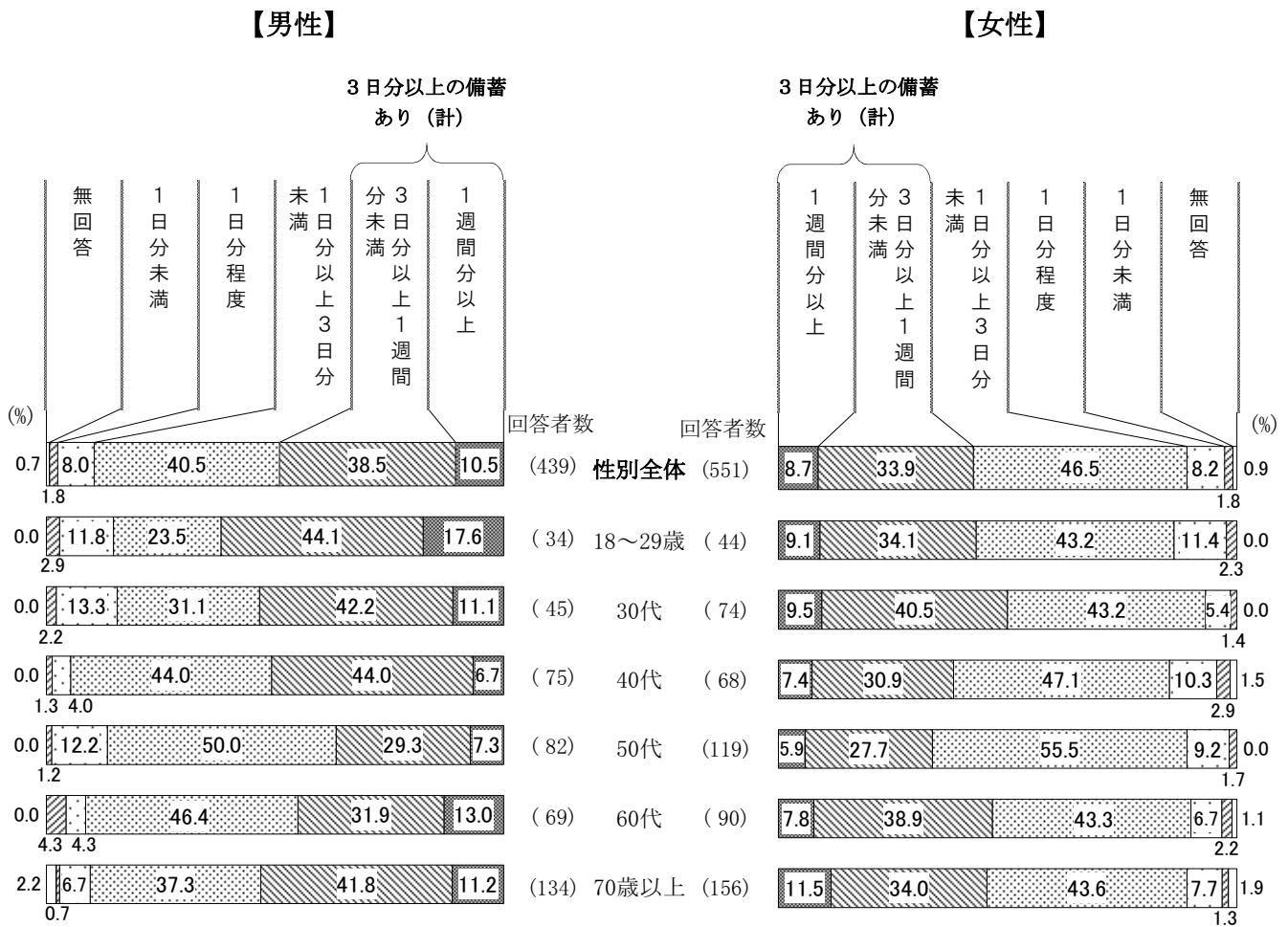
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

- (ア) 「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（49.0%）の方が女性（42.6%）より6.4ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の18～29歳が61.8%で最も高く、次いで男性の30代（53.3%）となっている。逆に、女性の50代が33.6%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の60代が4.3%で最も高くなっている。

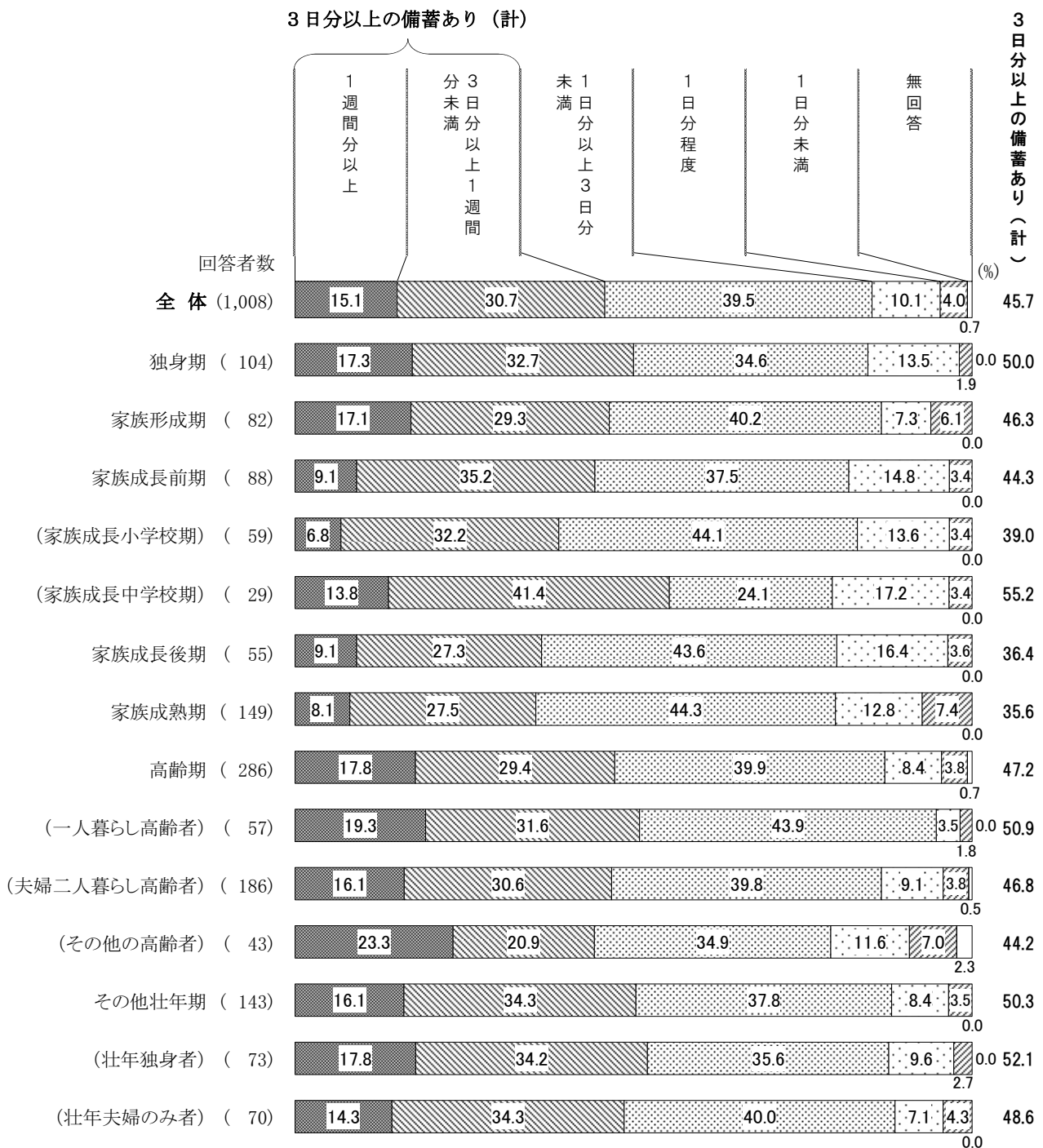
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



オ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他壮年期〉が50.3%で最も高く、次いで、〈独身期〉が50.0%となっている。逆に〈家族成熟期〉と〈家族成長後期〉が3割台半ばと低くなっている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水

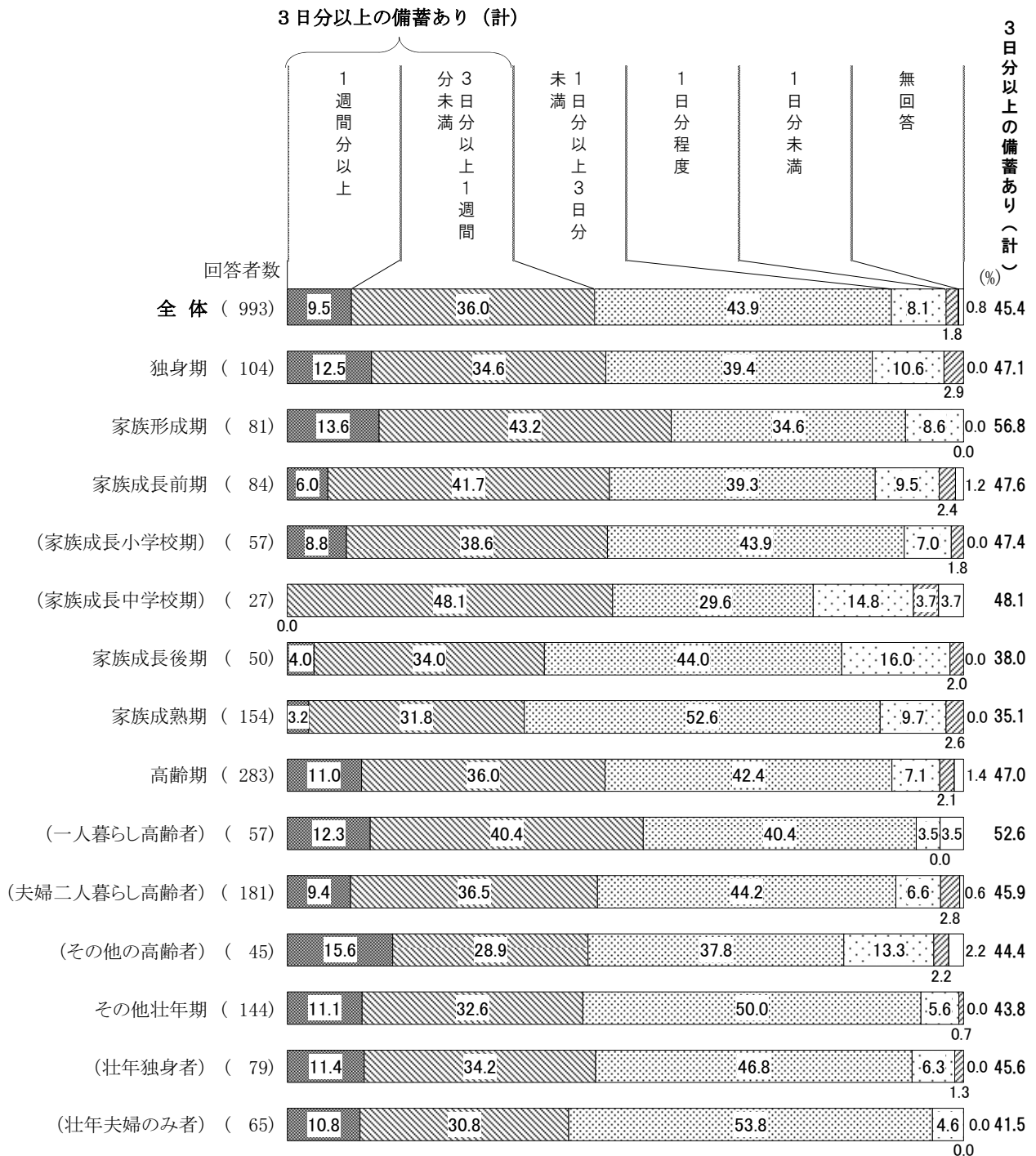




カ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が56.8%で最も高く、次いで、〈家族成長前期〉が47.6%となっている。逆に〈家族成熟期〉が35.1%で最も低くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

問4で「3 特に用意していない」とお答えの方に

問4-2 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(〇は1つだけ)。

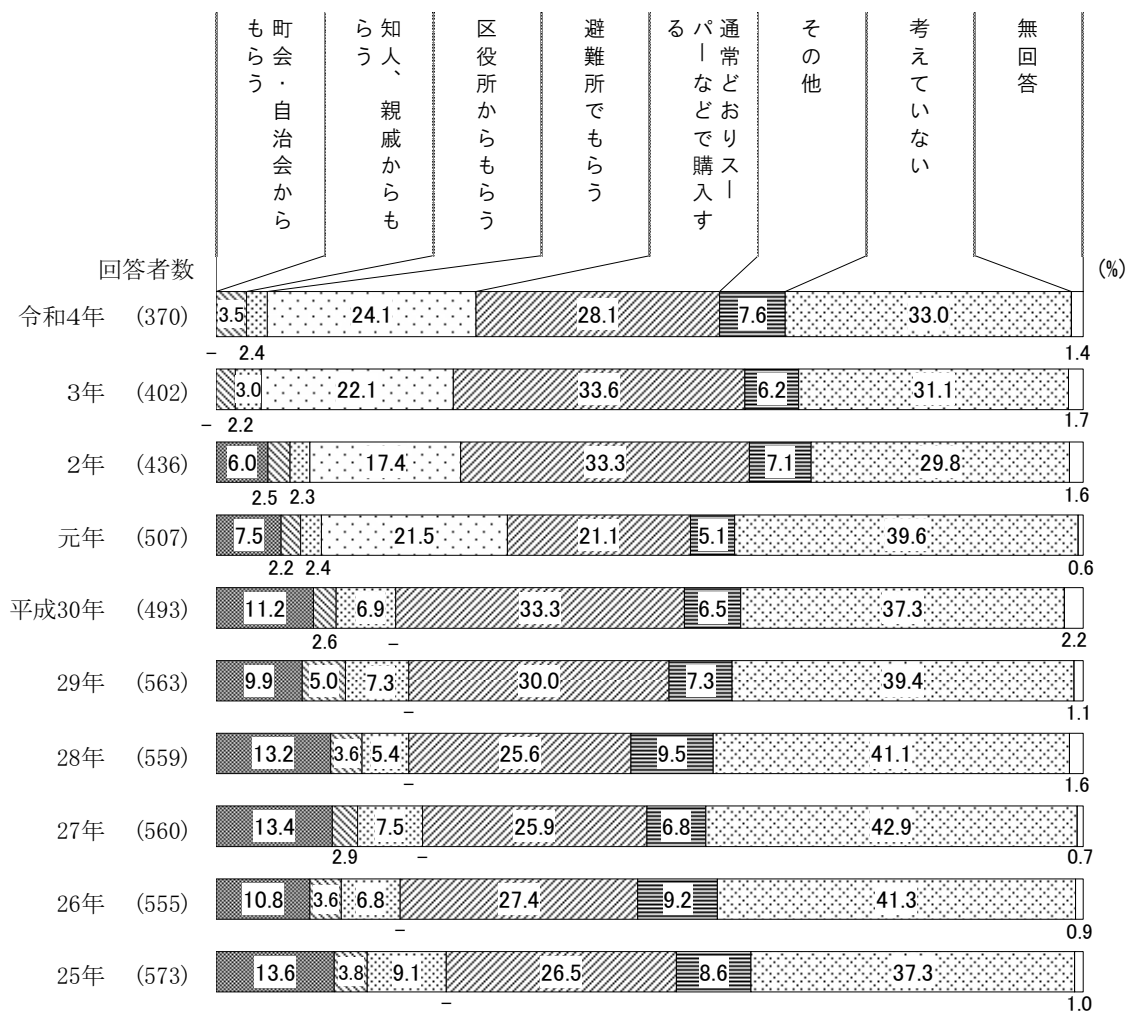
■「考えていない」が3割台半ば近くで、「スーパーなどで購入」(3割弱)を上回っている

ア 単純集計・経年比較／災害発生時の水や食料の確保

(ア) 備蓄や防災用具などを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「考えていない」が33.0%と最も高く、次いで「通常どおりスーパーなどで購入する」(28.1%)、「避難所でもらう」(24.1%) などとなっている。

(イ) 前回の令和3年調査との比較でみると、「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回調査(33.6%)に比べて5.5ポイント減少しており、逆に「避難所でもらう」(前回調査22.1%)と「考えていない」(前回調査31.1%)で約2ポイント増加している。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



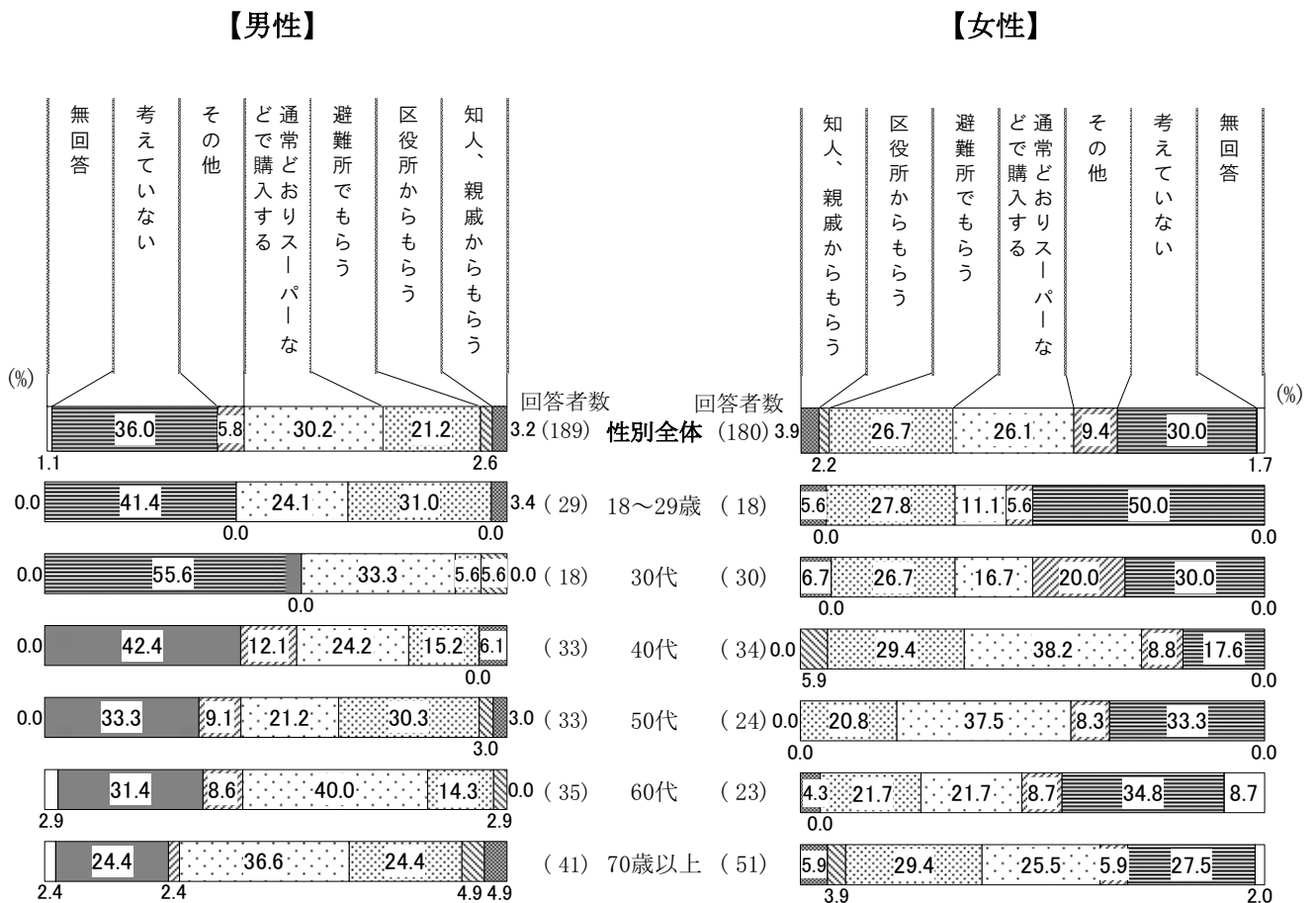
※「避難所でもらう」は、令和元年度で新設。  
 ※「町会・自治会からもらう」は、令和3年度から削除。

イ クロス集計・性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保

(ア) 性別で見ると、「考えていない」は男性（36.0%）の方が女性（30.0%）より6.0ポイント高く、「通常どおりスーパーなどで購入する」でも男性（30.2%）の方が女性（26.1%）より4.1ポイント高くなっている。一方、「避難所でもらう」は女性（26.7%）の方が男性（21.2%）より5.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別では、サンプル数が30未満の性・年齢層が多いことから、あくまで参考値としての掲載にとどめる。

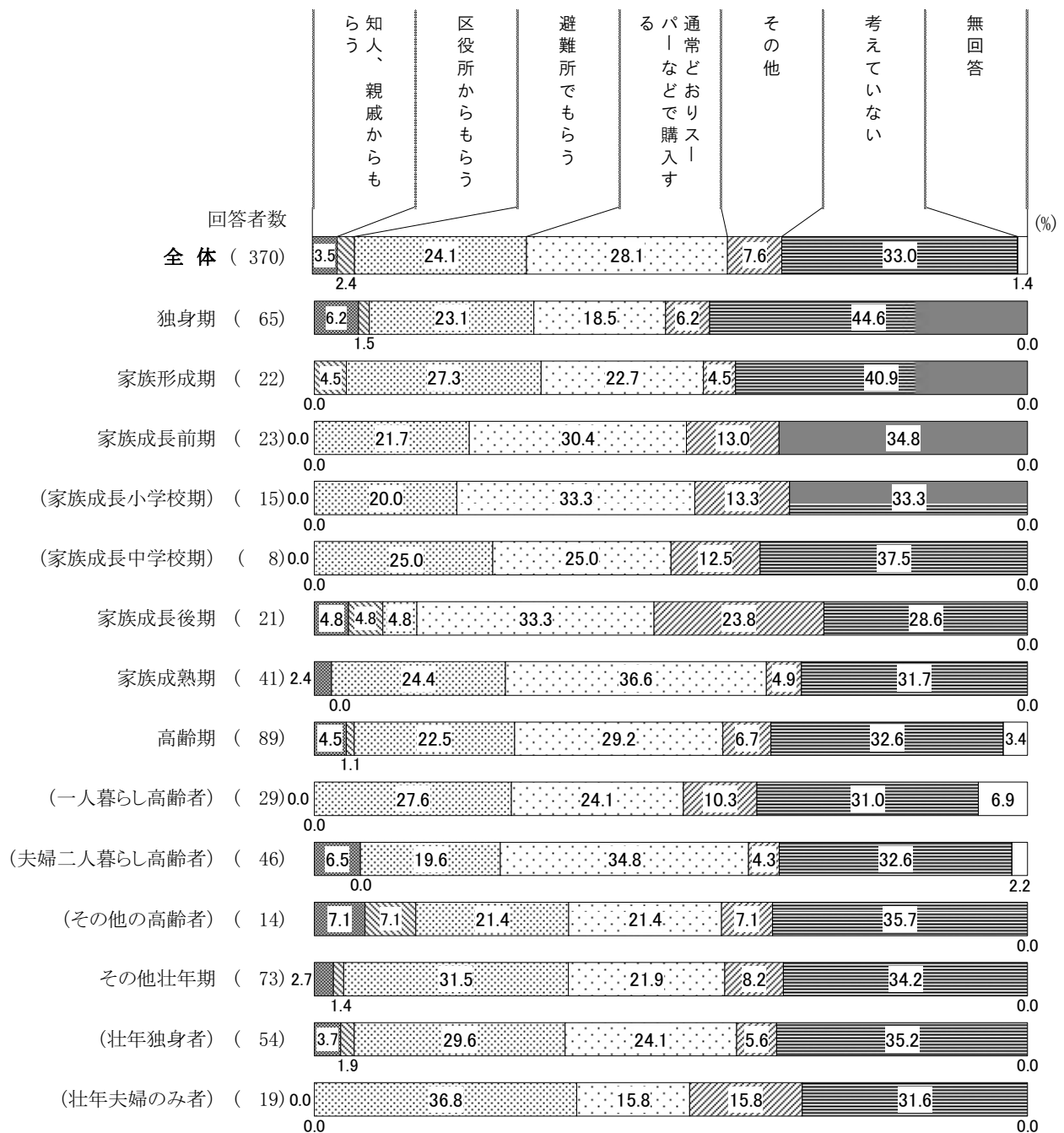
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ウ クロス集計・ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

〈家族形成期〉、〈家族成長前期〉、〈家族成長後期〉でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、ライフステージ別で見ると、「考えていない」は〈独身期〉で高く、「通常どおりスーパーなどで購入する」は〈家族成熟期〉、「避難所でもらう」は〈その他壮年期〉で高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

問5 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

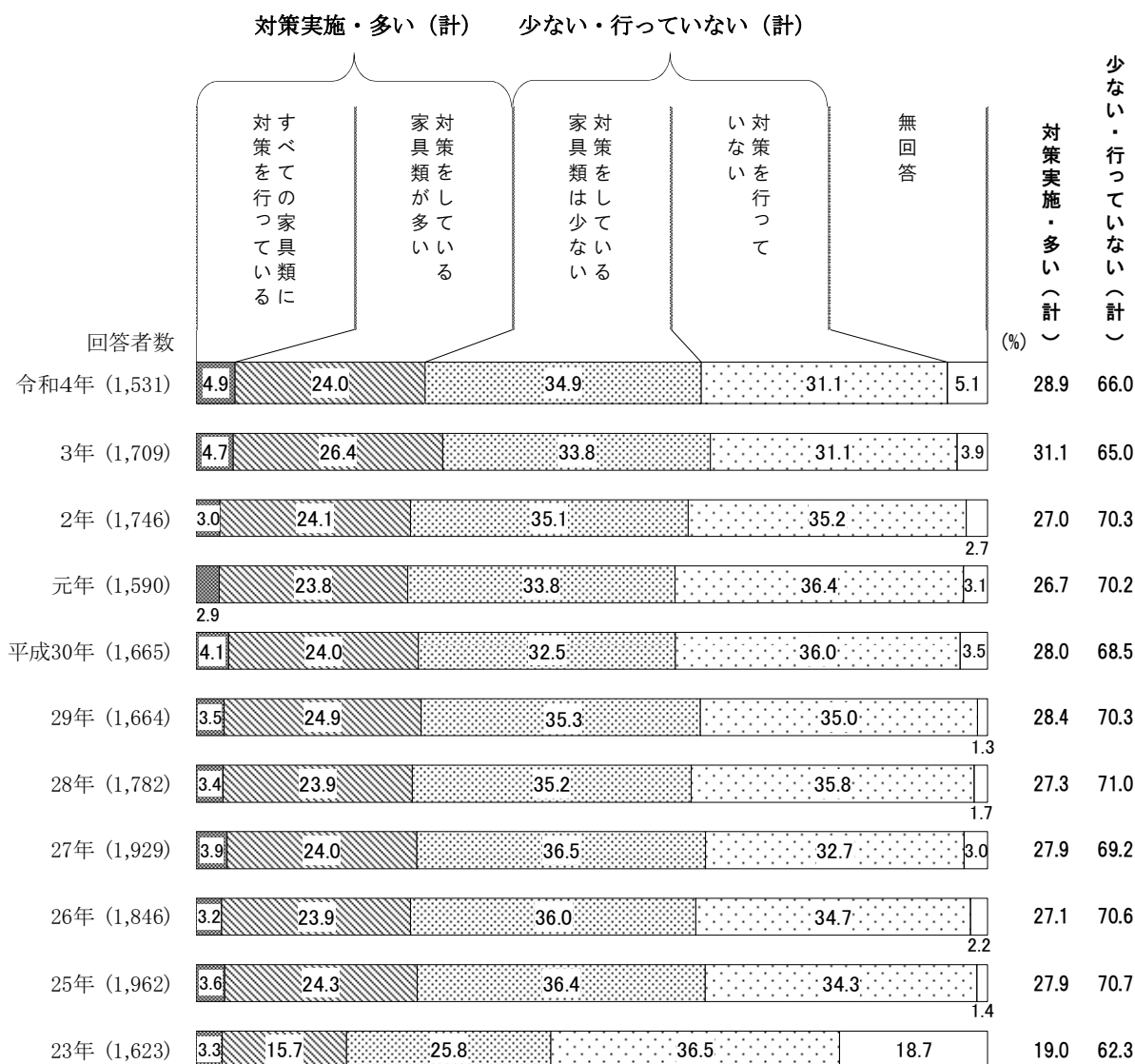
■【少ない・行っていない】が3分の2で、【対策実施・多い】が3割弱

ア 単純集計・経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

(ア) 家具類の転倒・落下・移動防止対策について、「すべての家具類に対策を行っている」は4.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」(24.0%)を合わせた【対策実施・多い】は28.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は34.9%で最も高く、これに「対策を行っていない」(31.1%)を合わせた【少ない・行っていない】は66.0%となっている。

(イ) 経年でみると、【対策実施・多い】は前回調査で初めて3割台となったが、今回はわずかに3割を下回った。

図2-5-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

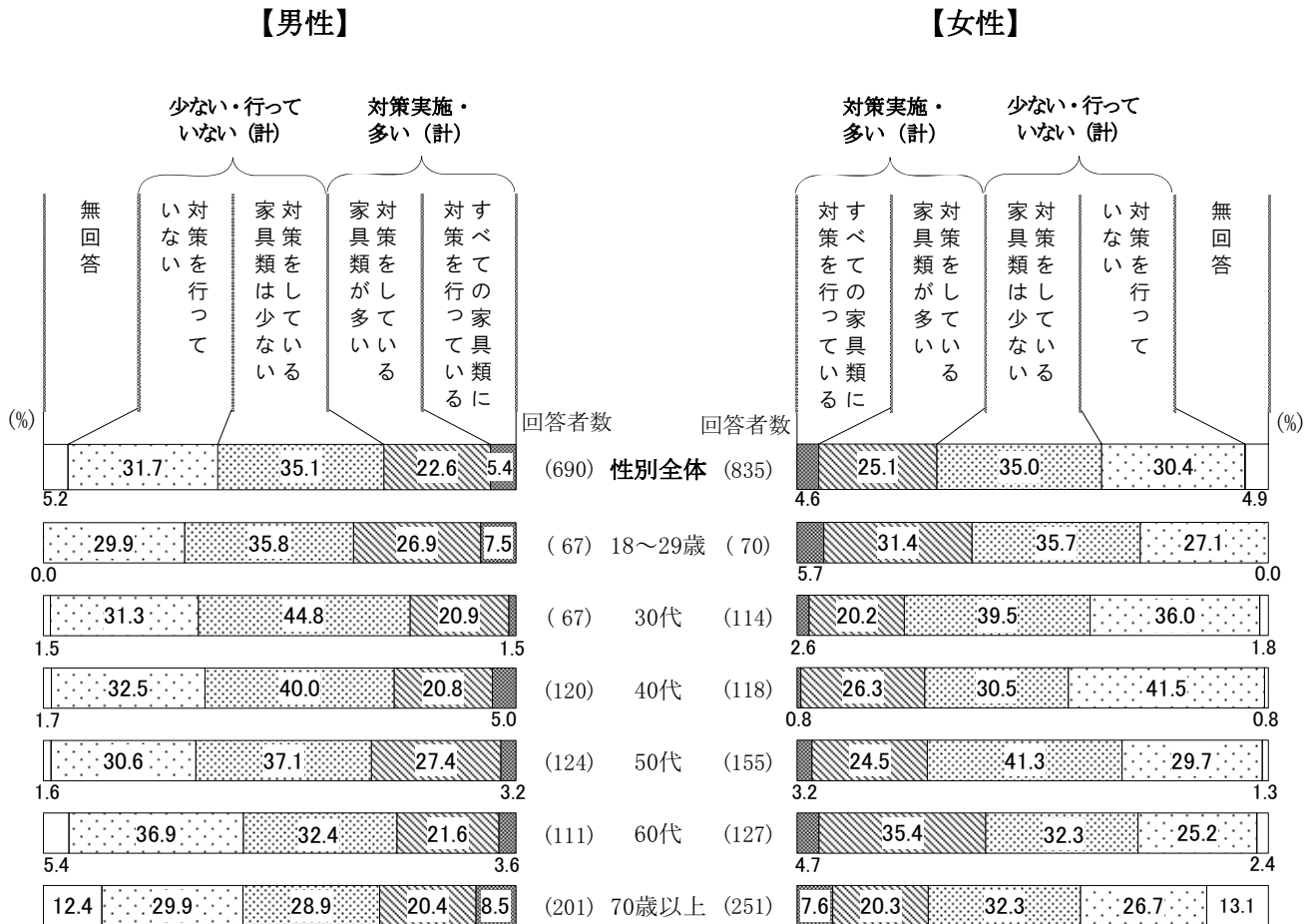


イ クロス集計・性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【対策実施・多い】は、女性の60代(40.2%)で最も高く、次いで、女性の18～29歳(37.1%)、男性の18～29歳(34.3%)となっている。逆に、男女ともに30代(男性22.4%・女性22.8%)で2割強と低い割合となっている。

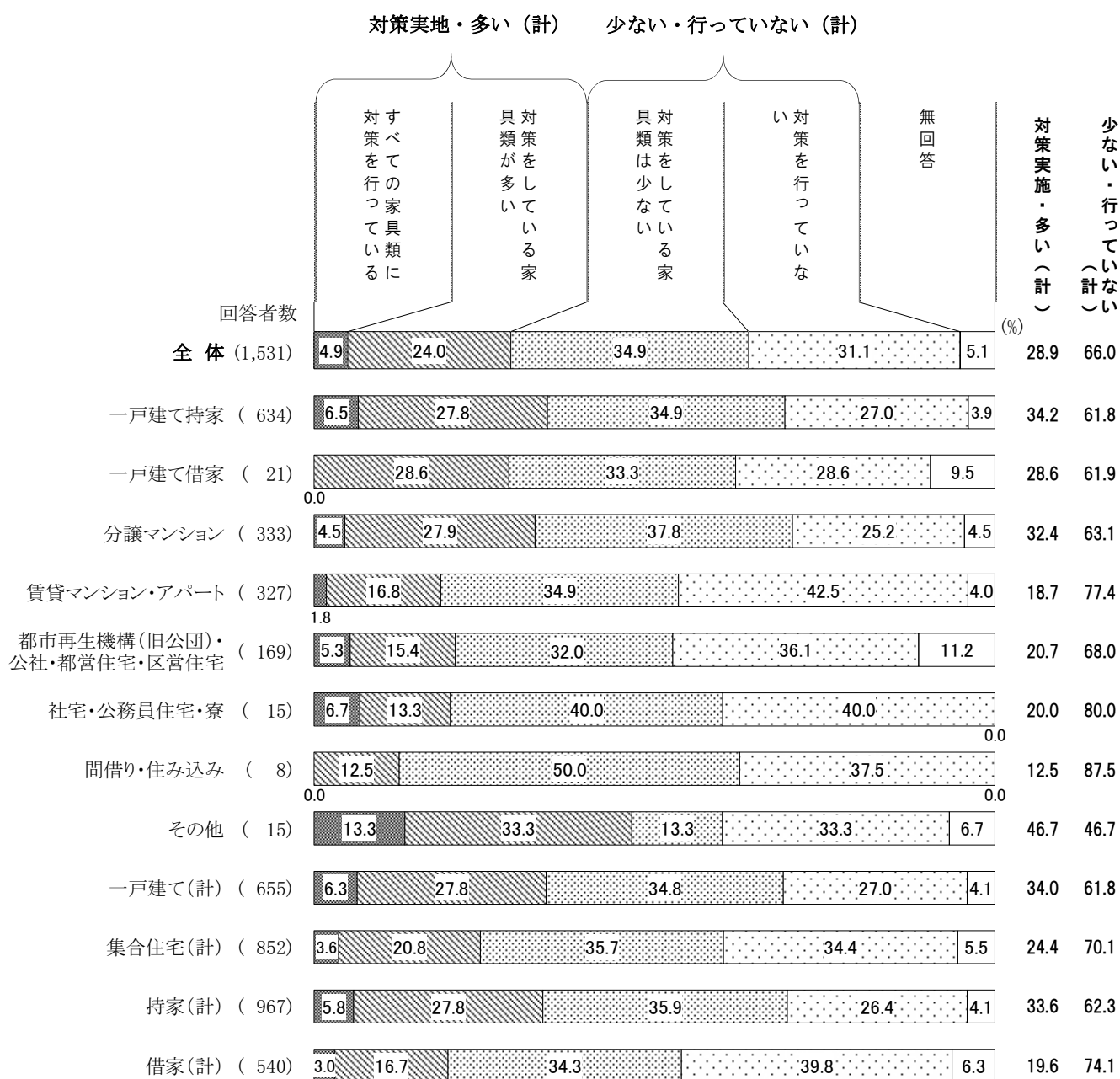
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



ウ クロス集計・住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

住居形態別に【対策実施・多い】を住宅の戸建て集合別にみると、〈一戸建て（計）〉（34.0%）の方が〈集合住宅（計）〉（24.4%）より9.6ポイント高く、住宅の所有形態別にみると、〈持家（計）〉（33.6%）の方が〈借家（計）〉（19.6%）より14.0ポイント高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

問5で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に  
 問5—1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

■ 「面倒である」と「危険な家具類なく不要」が3割弱

ア 単純集計・経年比較／対策をしていない理由

(ア) 家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.9%で最も高く、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(28.0%)が僅差で続いている。以下「建物の壁にキズをつけたくない」(23.4%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(19.5%)などとなっている。

(イ) 経年でみると、上位項目の順位に変動はみられず、数値にも大きな変動はみられない。

図2-6-1-① 経年比較／対策をしていない理由

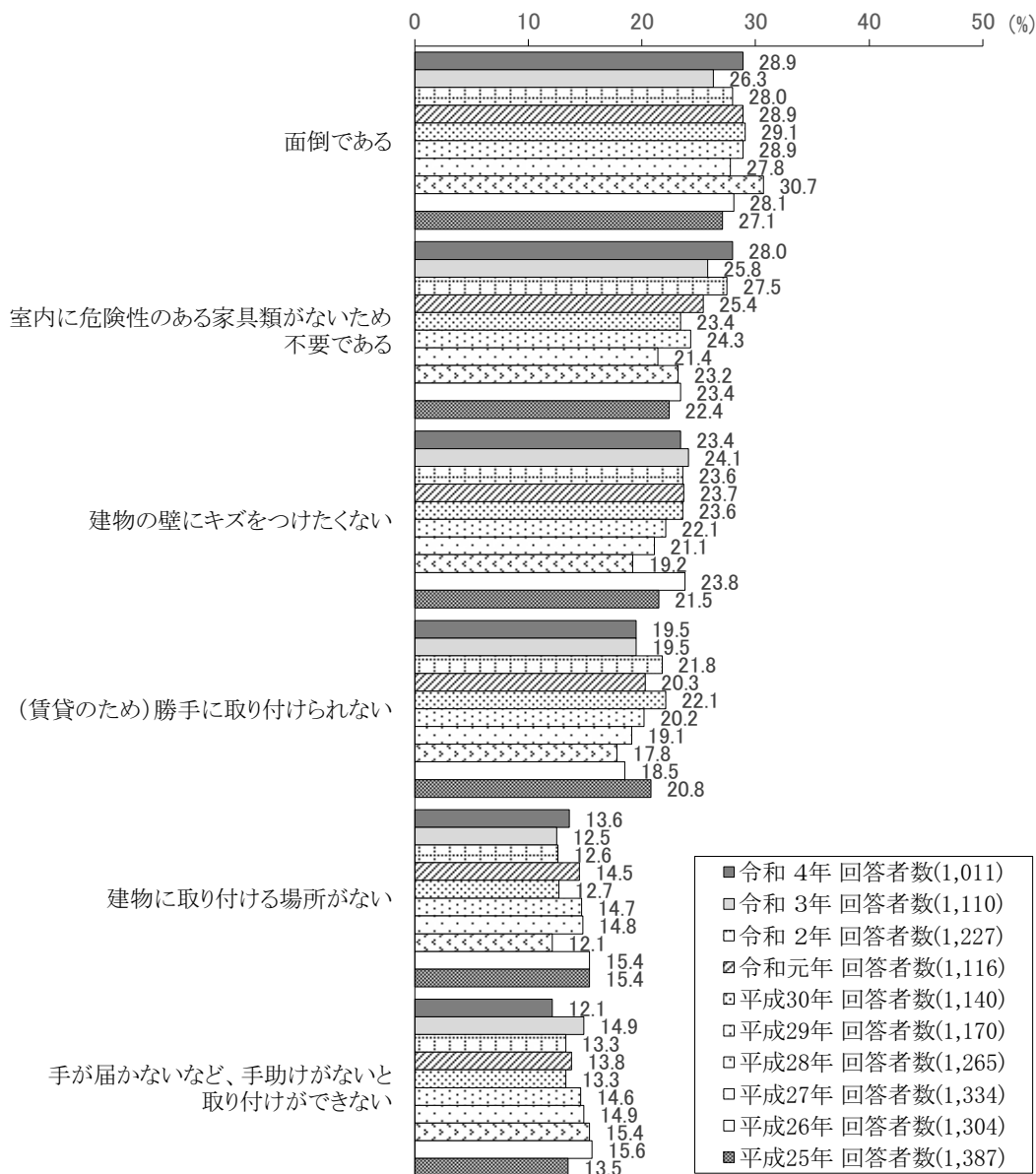
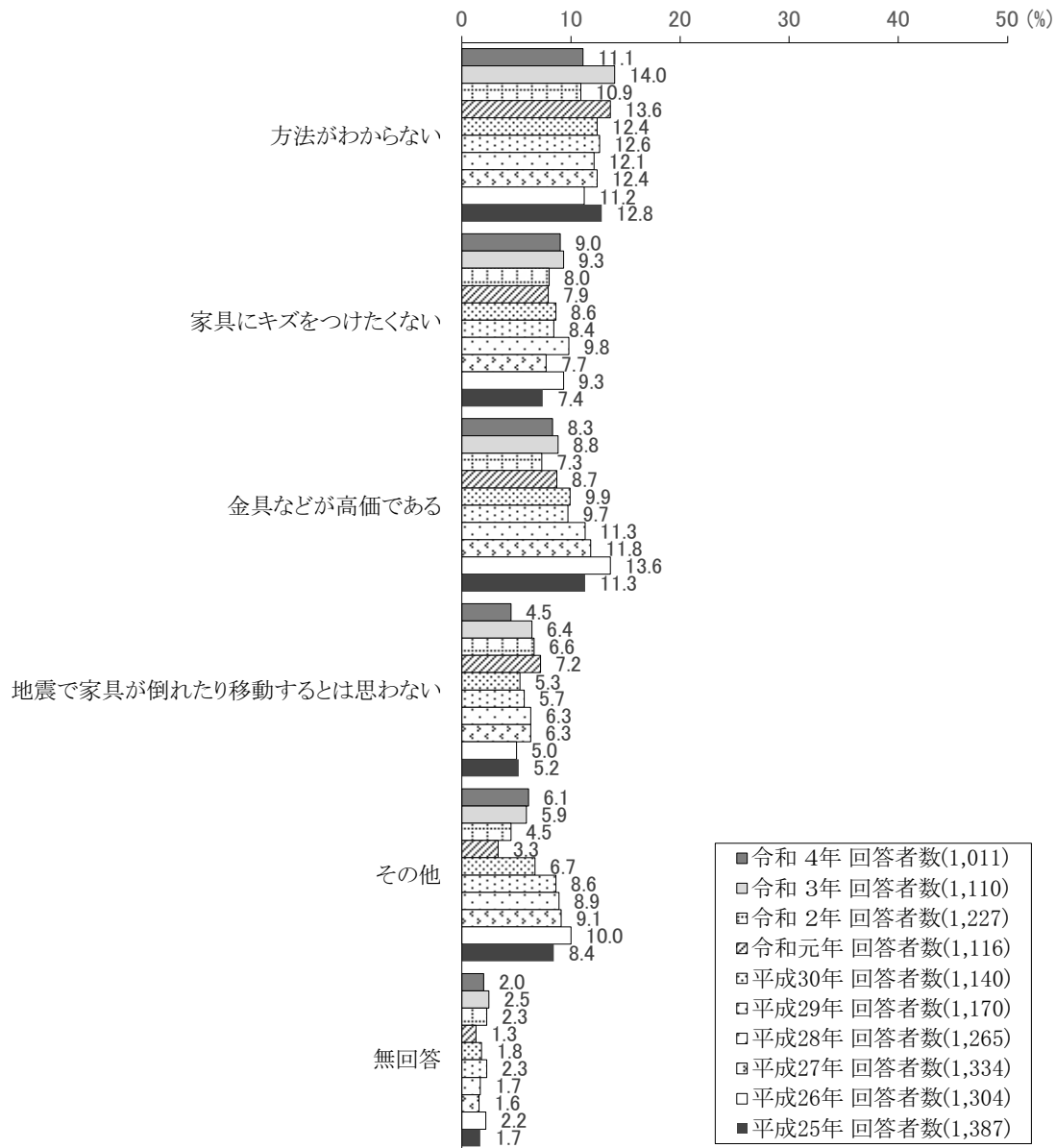




図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



イ クロス集計・住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目

(ア) 対策をしていない理由（住宅の戸建て集合別）

a 〈一戸建て（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈集合住宅（計）〉の方が高くなっている項目

「建物の壁にキズをつけたくない」、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」など

(イ) 対策をしていない理由（住宅の所有形態別）

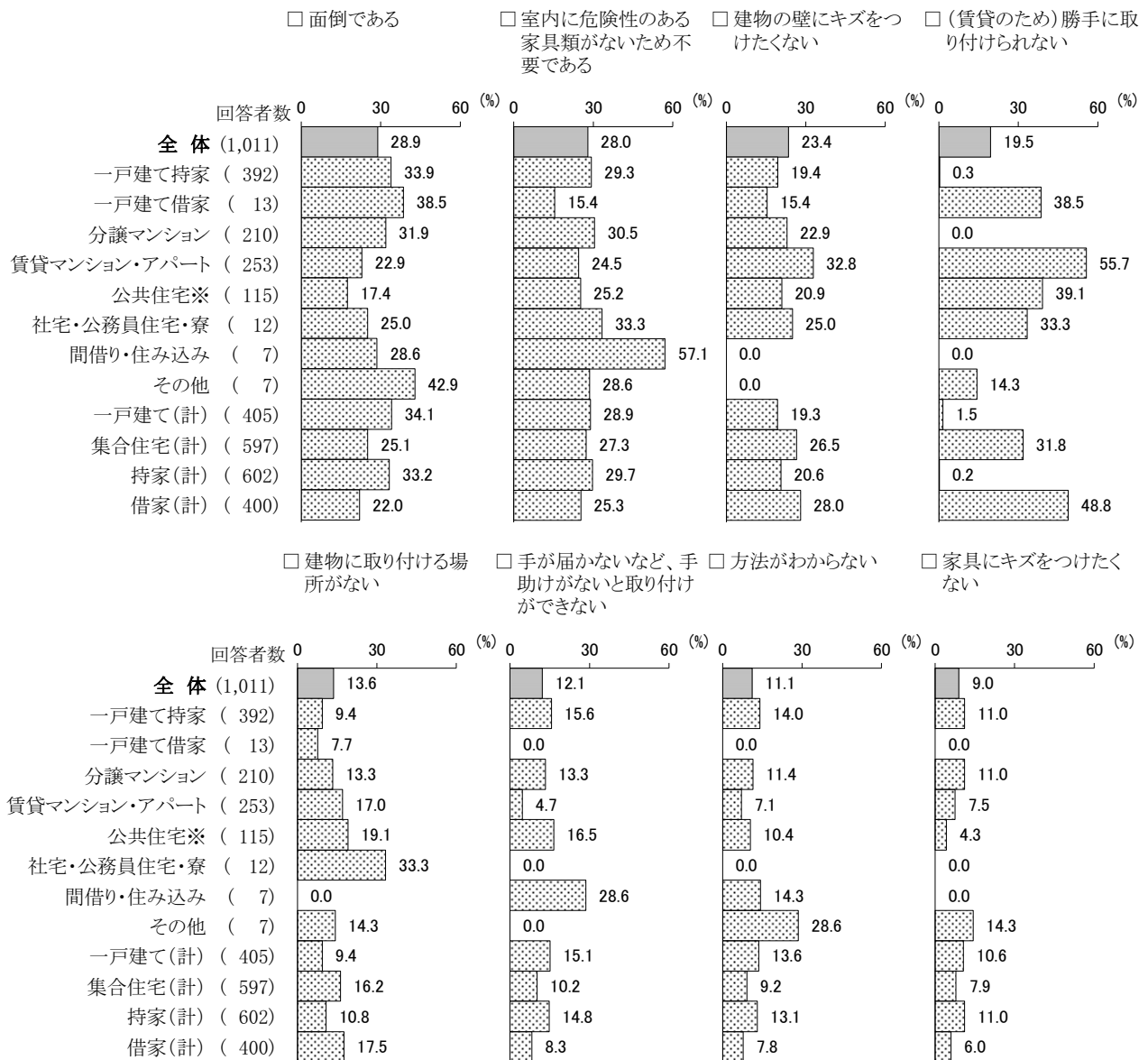
a 〈持家（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈借家（計）〉の方が高くなっている項目

「建物の壁にキズをつけたくない」、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」など

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問6 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■ 「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（21.0%）

ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

(ア) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が32.6%で最も高く、「ア 一時集合場所」(29.1%)、「ウ 第一次避難所」(21.0%)の順となっている。

(イ) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(33.1%)、「ウ 第一次避難所」(23.1%)の順となっている。

(ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「イ 避難場所」(4.1ポイント)、「ア 一時集合場所」(4.0ポイント)、「ウ 第一次避難所」(2.1ポイント)となっている。

図2-7-1-① 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

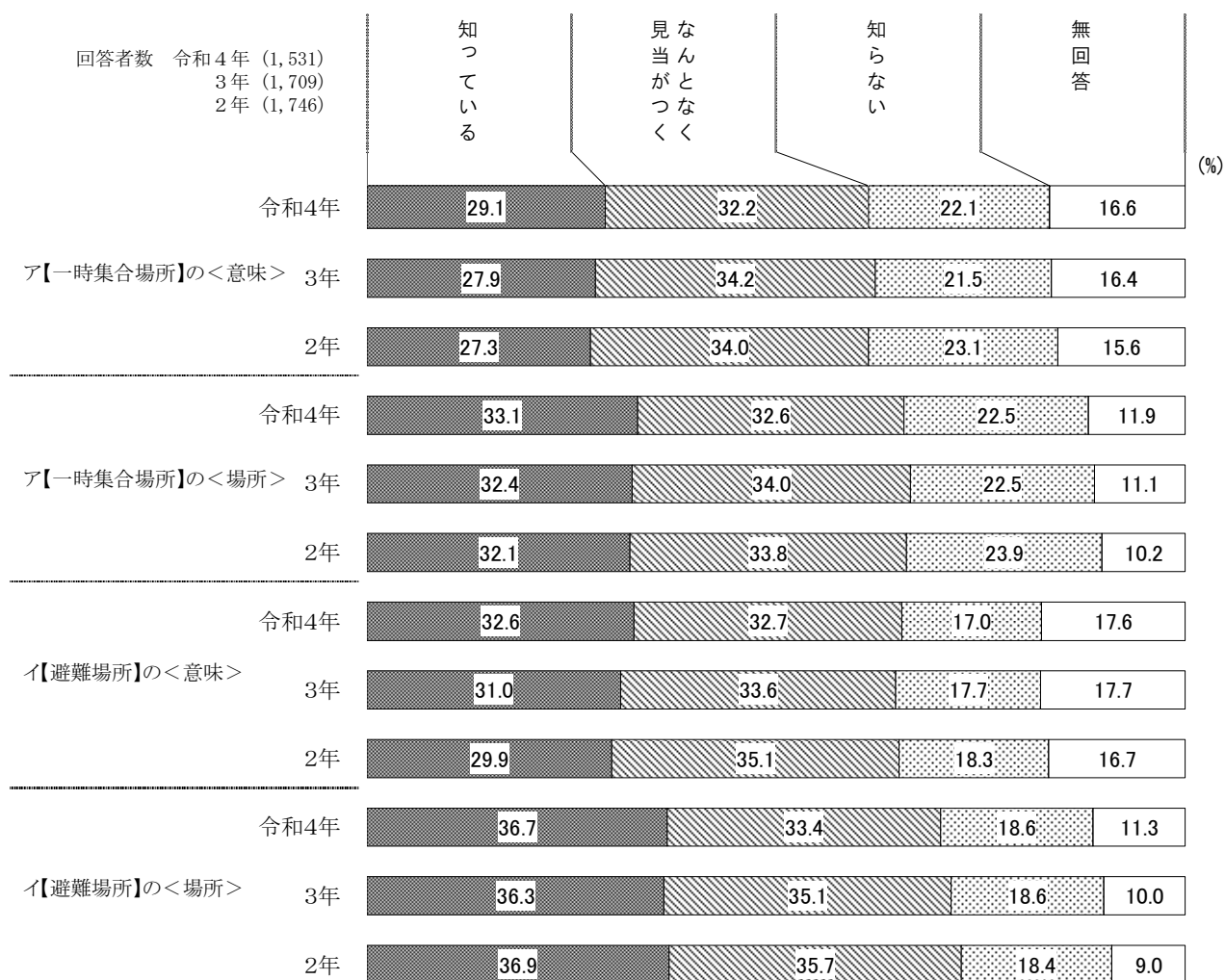
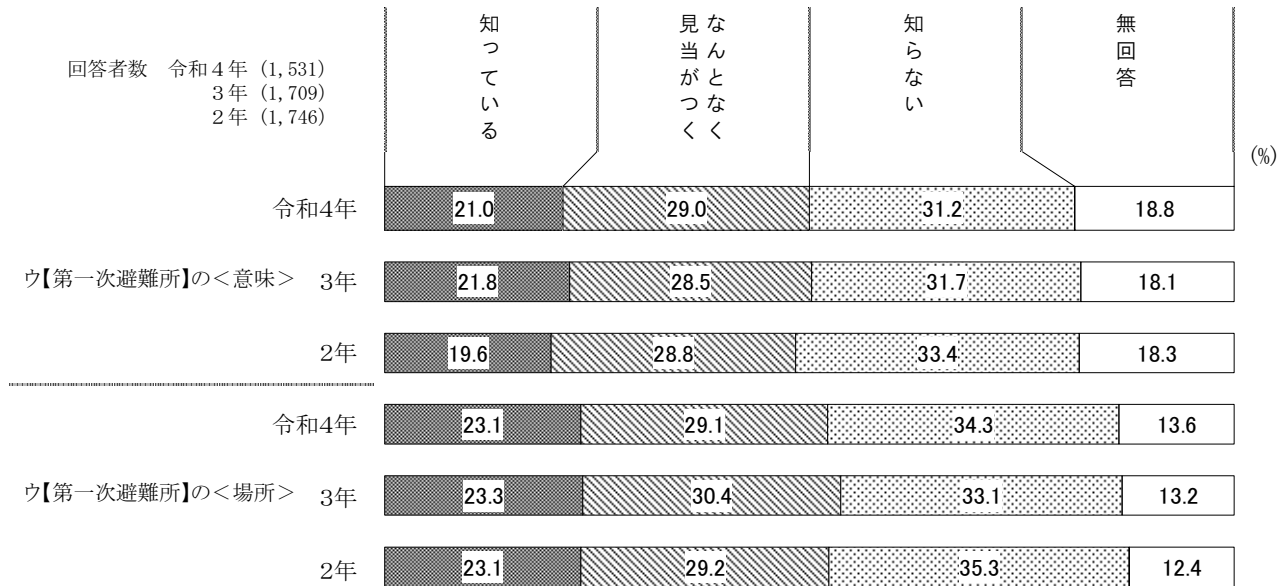
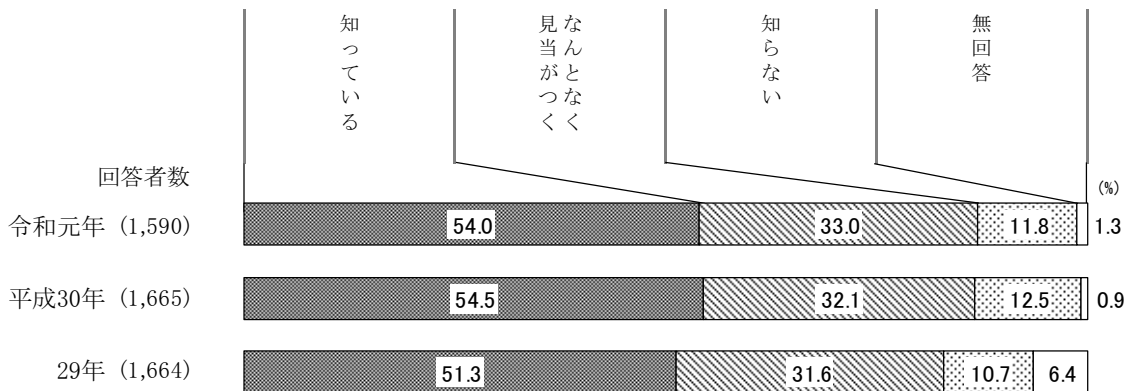


図2-7-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



参考／地域の避難場所の認知

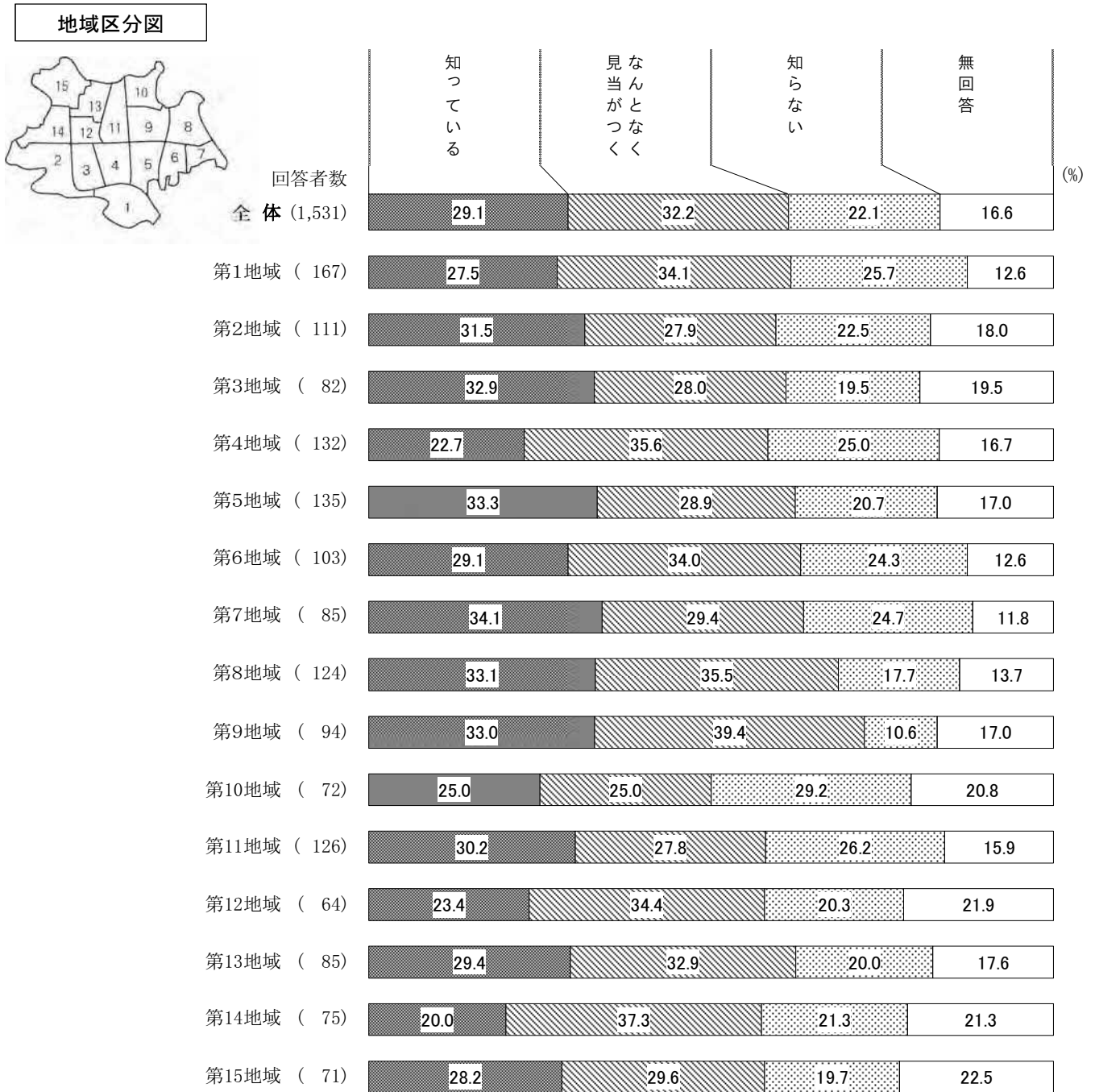
問 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第7地域が34.1%で最も高く、次いで第5地域（33.3%）となっている。一方、第14地域が20.0%で最も低く、次いで第4地域（22.7%）となっている。

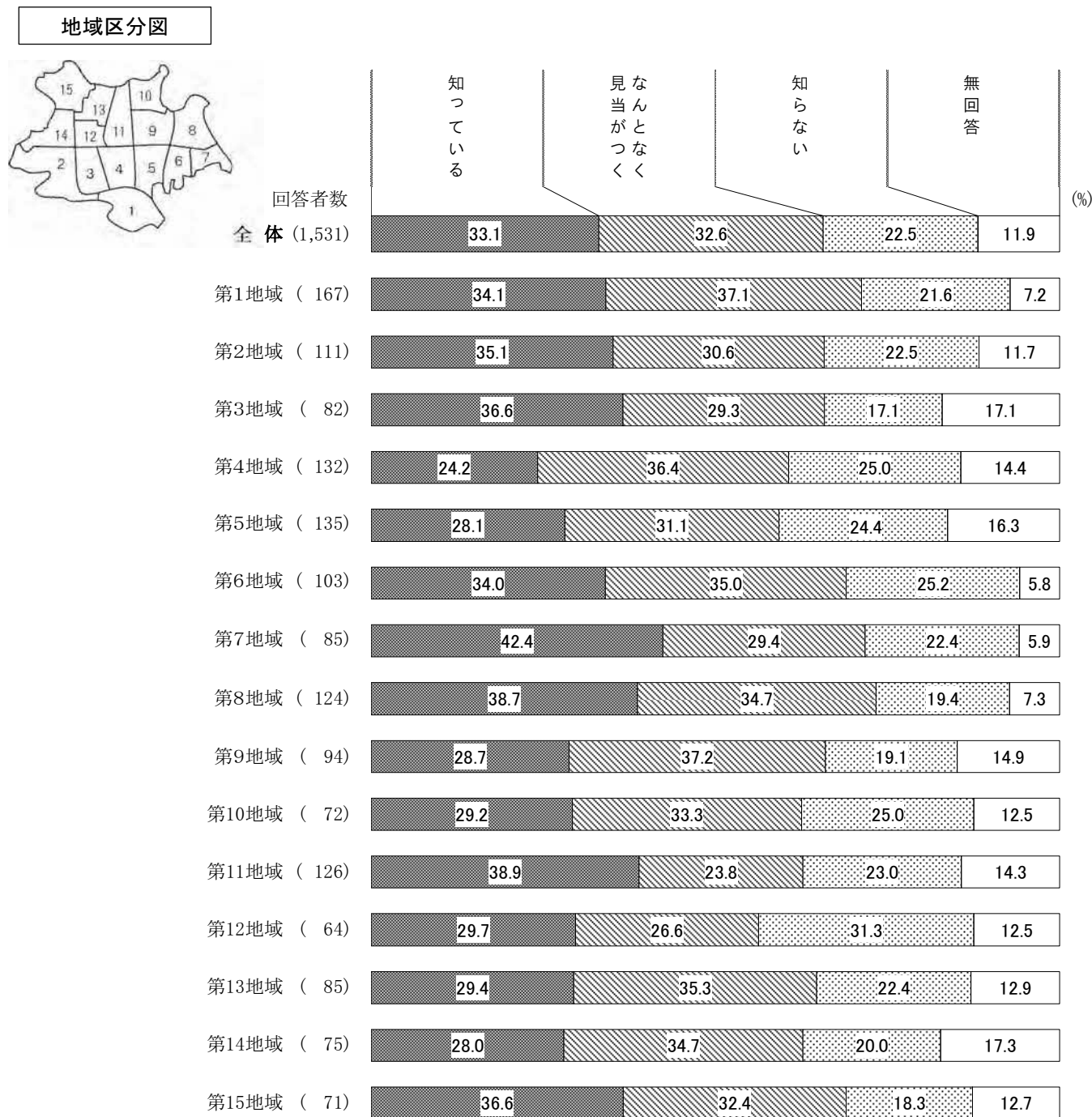
図2-7-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第7地域が42.4%で最も高く、次いで第11地域（38.9%）となっている。一方、第4地域が24.2%で最も低く、次いで第14地域（28.0%）となっている。

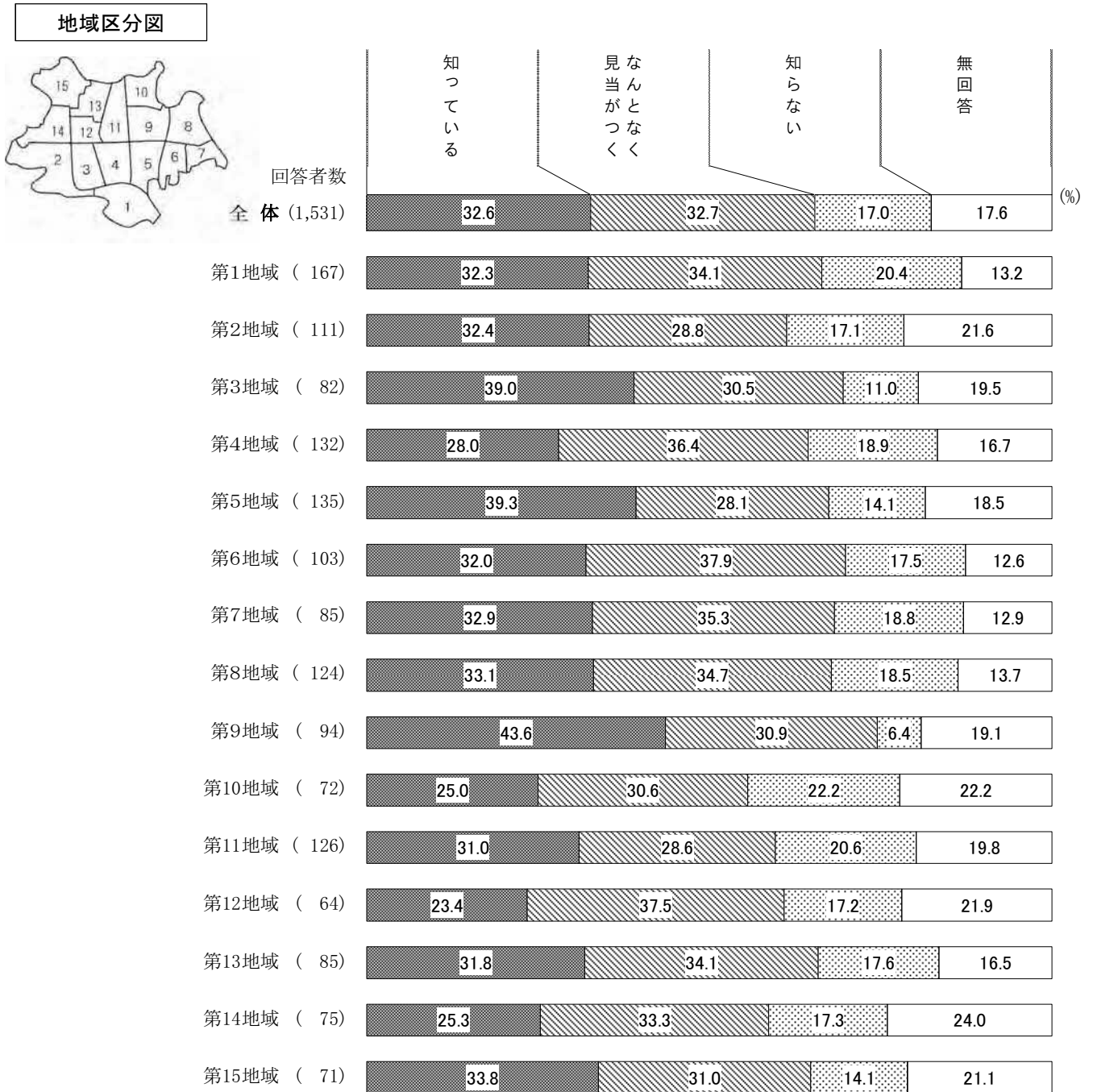
図2-7-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第9地域が43.6%で最も高く、次いで第5地域（39.3%）となっている。一方、第12地域が23.4%で最も低く、次いで第10地域（25.0%）となっている。

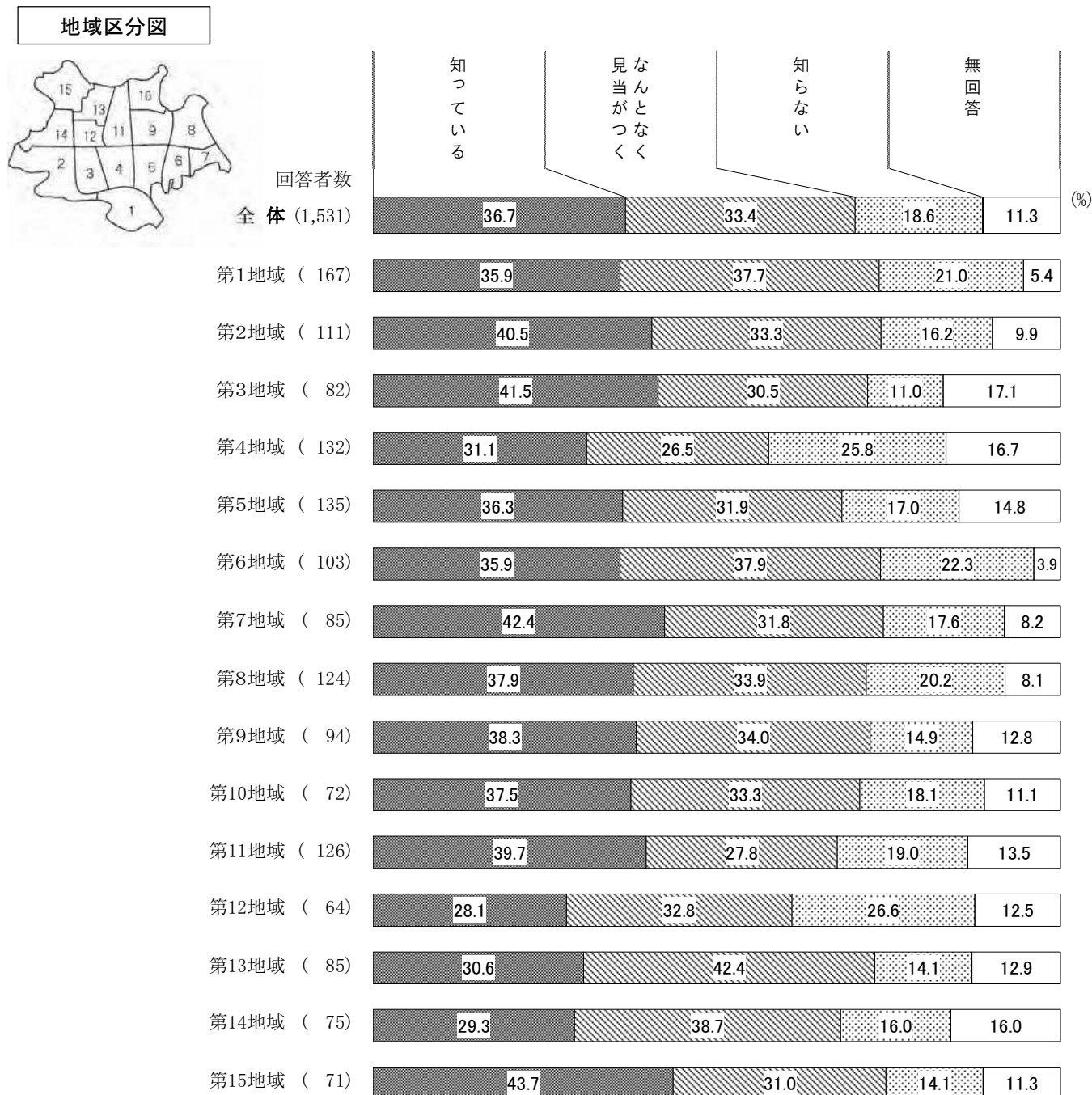
図2-7-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が43.7%で最も高く、次いで第7地域（42.4%）となっている。一方、第12地域が28.1%で最も低く、次いで第14地域（29.3%）となっている。

図2-7-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

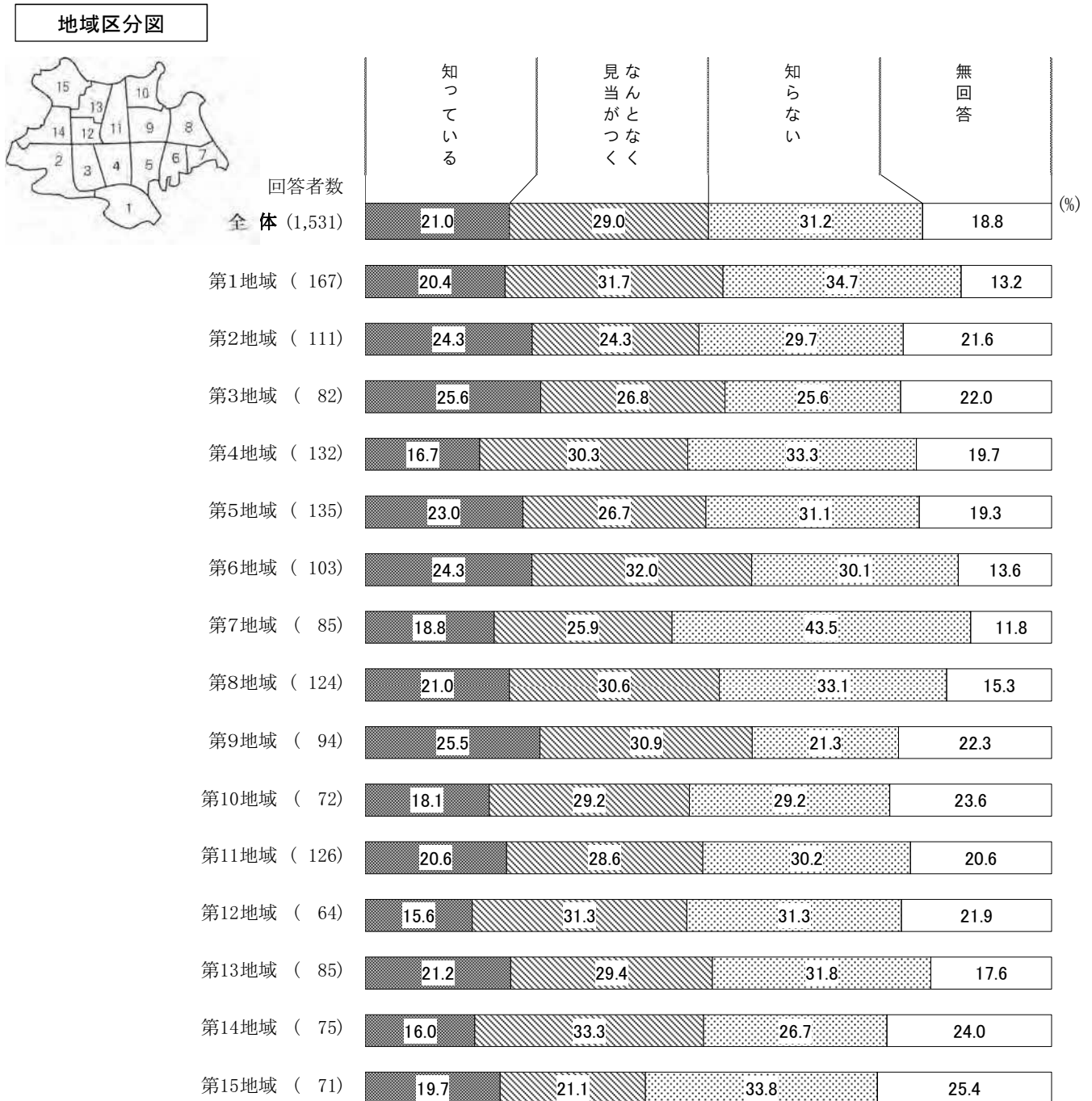




カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第3地域が25.6%と最も高く、次いで第9地域(25.5%)となっている。一方、第12地域が15.6%で最も低く、次いで第14地域(16.0%)となっている。

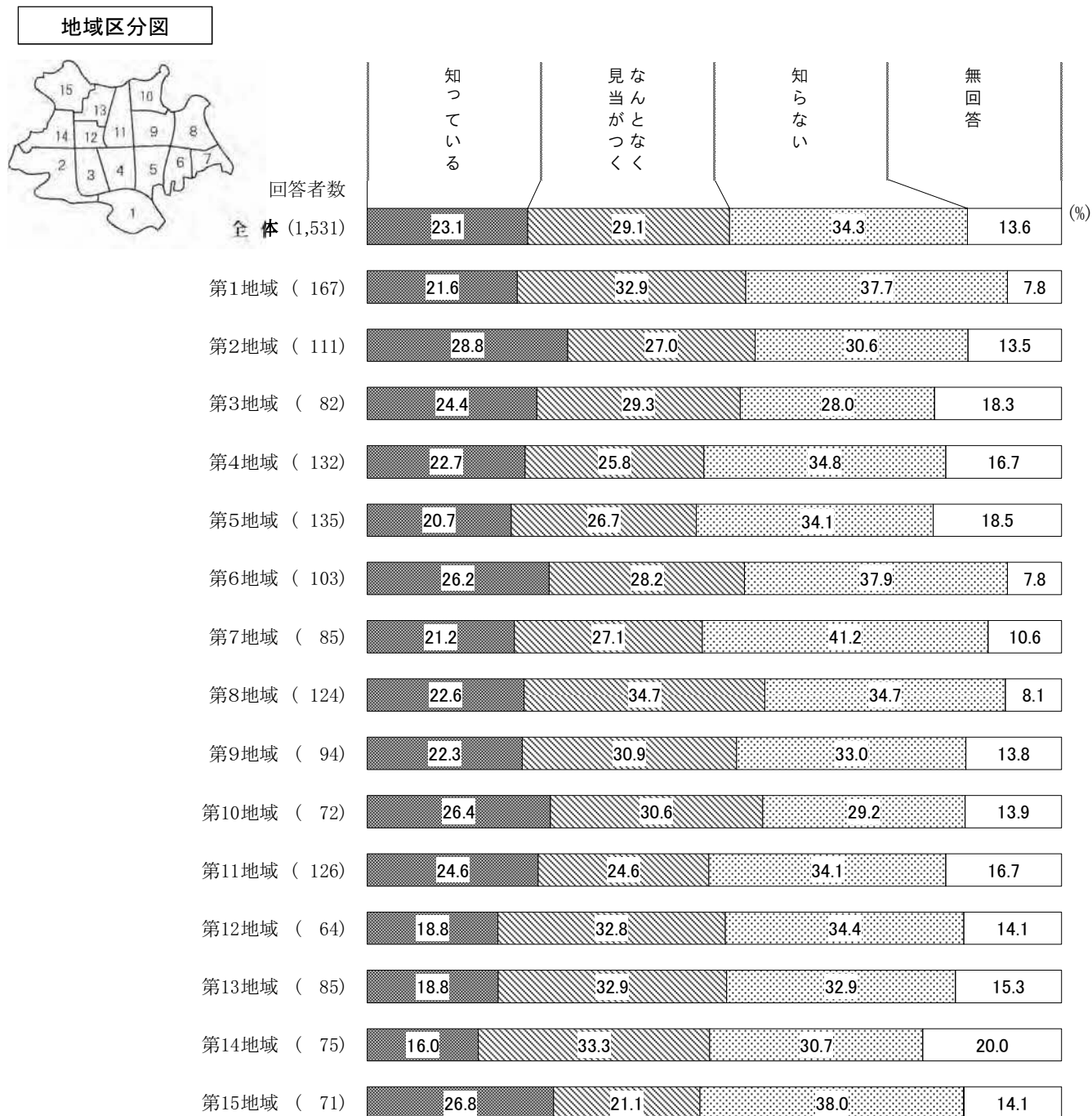
図2-7-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第2地域が28.8%で最も高く、次いで第15地域（26.8%）となっている。一方、第14地域が16.0%で最も低く、次いで第12地域と第13地域（各18.8%）となっている。

図2-7-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



（8）避難場所の認知経路

問6のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に

問6—1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（○はあてはまるものすべて）。

■ “防災マップ&ガイド” が5割強で最も高く、次いで“広報”が3割

ア 単純集計・経年比較／避難場所の認知経路

（ア）問6の3種の避難場所の場所又は意味のいずれかを認知している場合の認知経路を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 「あだち防災マップ&ガイド」(51.8%)
- ② 「あだち広報」(30.5%)
- ③ 「公園などに設置している表示板・標識」(27.3%)
- ④ 「区が配布した資料」(25.9%)
- ⑤ 「足立区防災アプリ」(21.2%)

（イ）経年でみると、前回調査との比較では上位3位の順位は変わっていないが、「区が配布した資料」（5位→4位）、「足立区防災アプリ」（6位→5位）が順位を上げ、「町会・自治会の掲示板・回覧板」（4位→6位）が順位を下げた。

（ウ）割合の増減では、「区が配布した資料」が4.4ポイント、「あだち防災マップ&ガイド」が3.2ポイントそれぞれ増加し、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」が2.6ポイント、「町会・自治会の掲示板・回覧板」が2.3ポイントそれぞれ減少となっている。

図2-8-1-① 経年比較／避難場所の認知経路

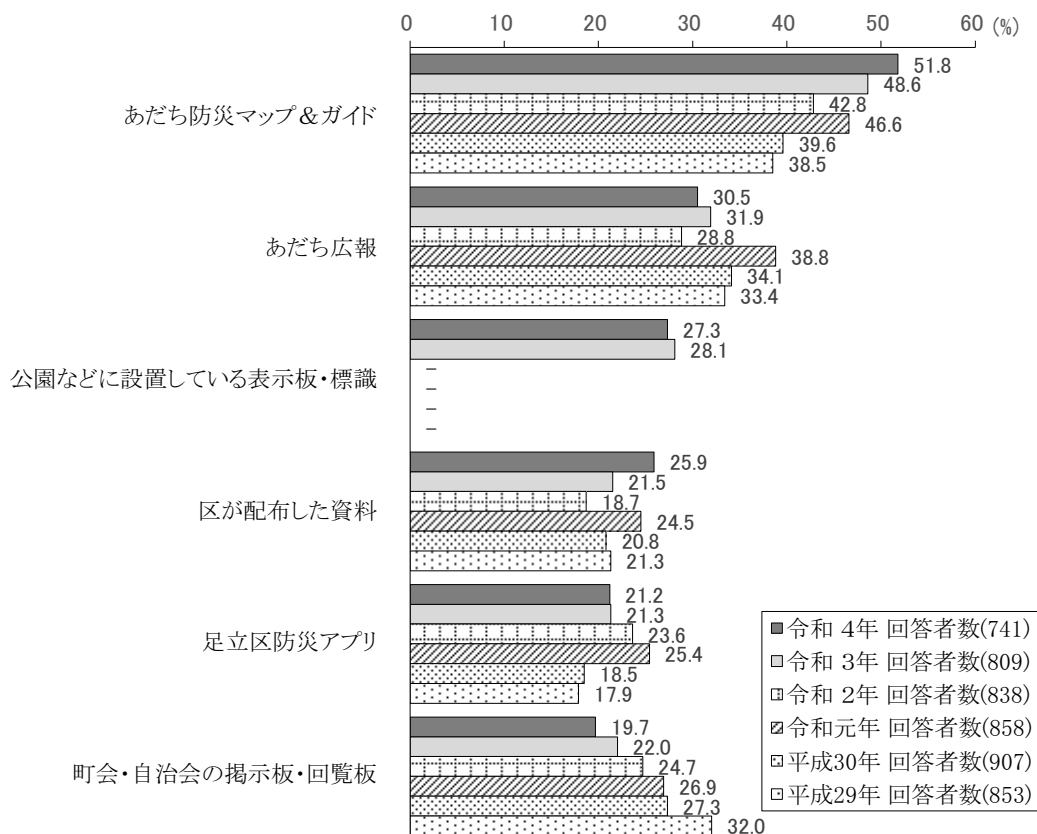
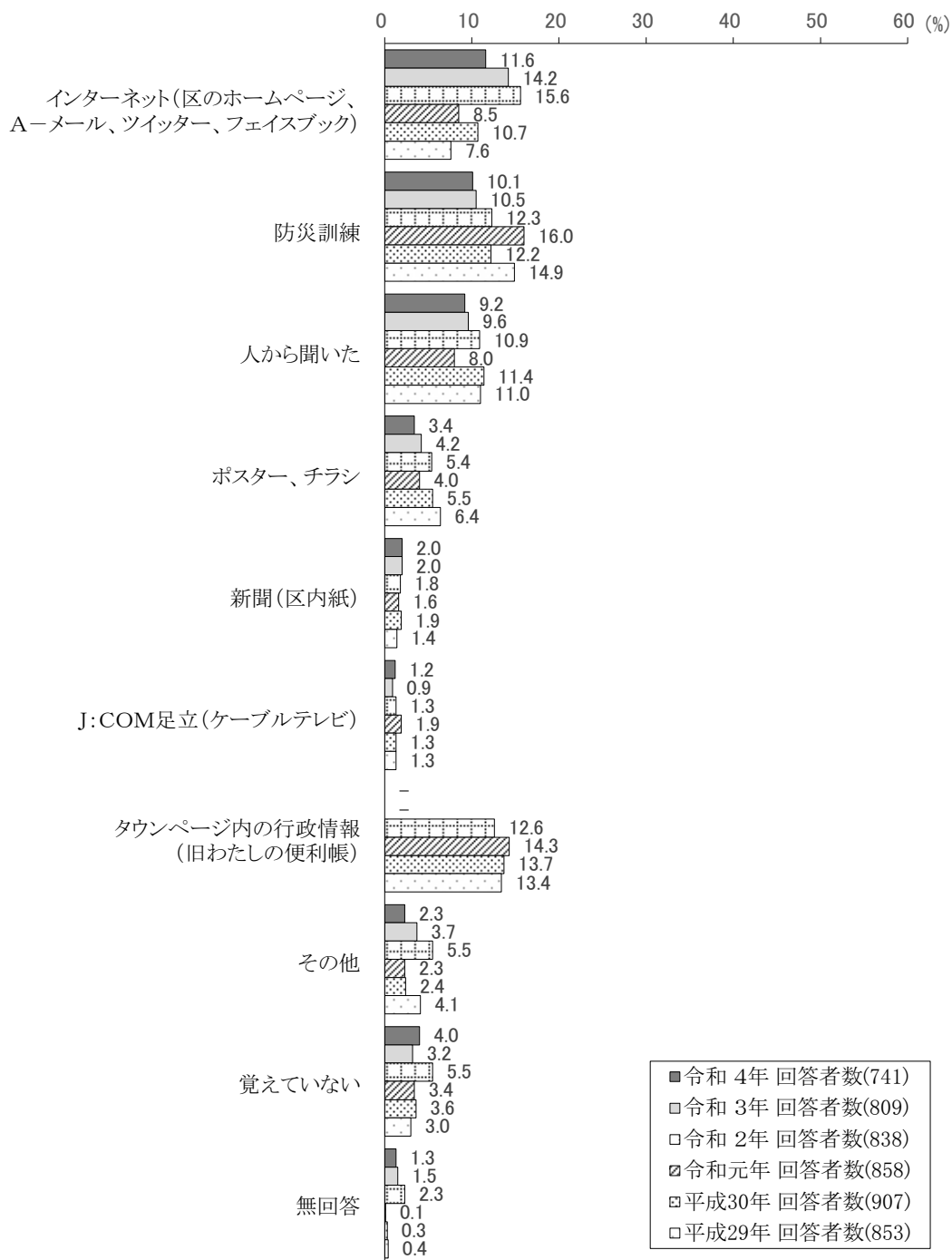


図2-8-1-② 経年比較／避難場所の認知経路

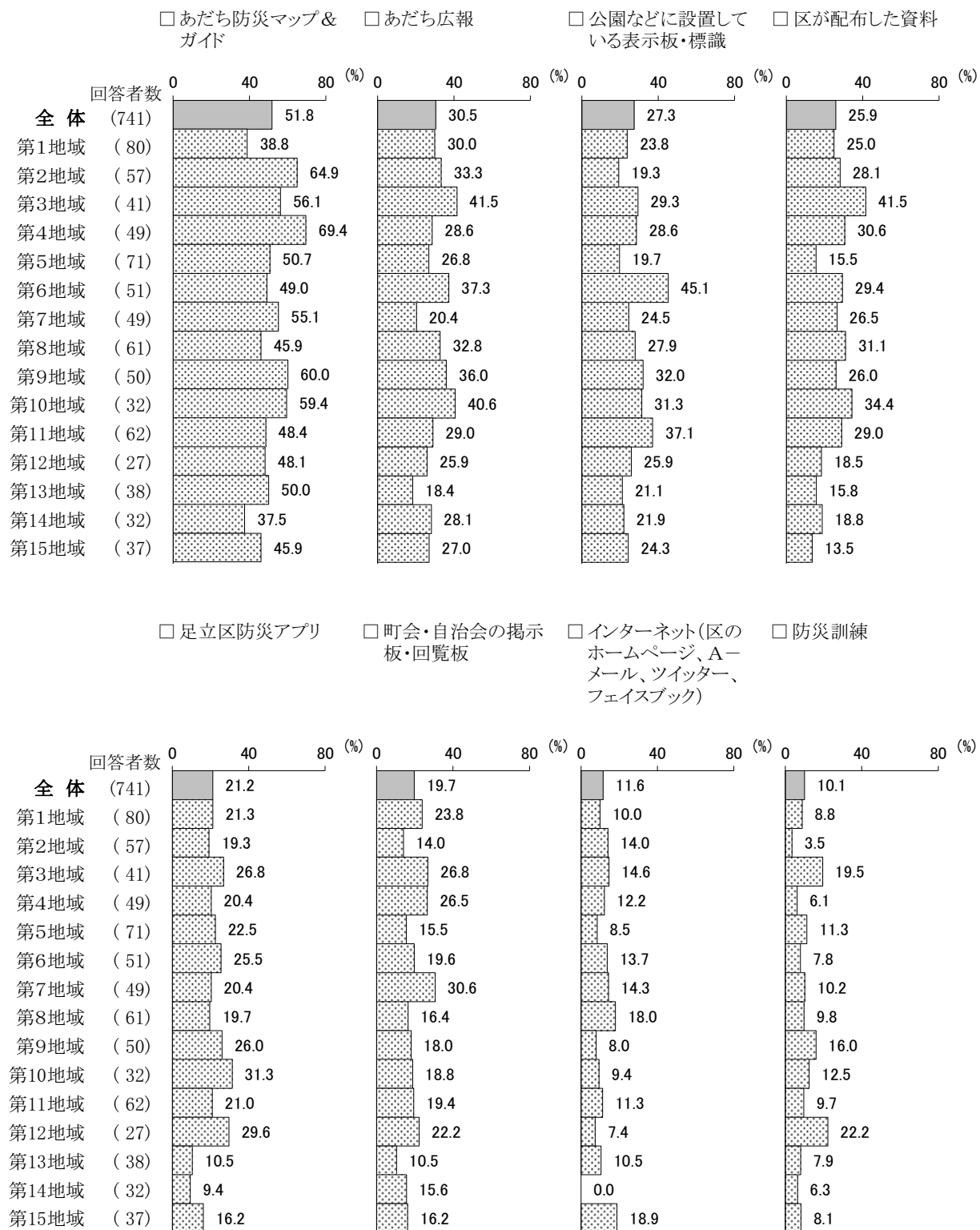


※「足立区防災アプリ」は、令和3年度までは「足立区防災ナビ」。  
 ※「公園などに設置している表示板・標識」は、令和3年度新設。  
 ※「タウンページ内の行政情報(旧わたしの便利帳)」は、令和3年度から削除。

イ クロス集計・地域別／避難場所の認知経路（上位8項目）

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第4地域で69.4%と最も高く、「あだち広報」は第3地域（41.5%）、「公園などに設置している表示板・標識」は第6地域（45.1%）、「区が配布した資料」は第3地域（41.5%）、「足立区防災アプリ」は第10地域（31.3%）で最も高くなっている。

図2-8-2 地域別／避難場所の認知経路／上位8項目



(9) 大規模災害時の避難生活場所

問7 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

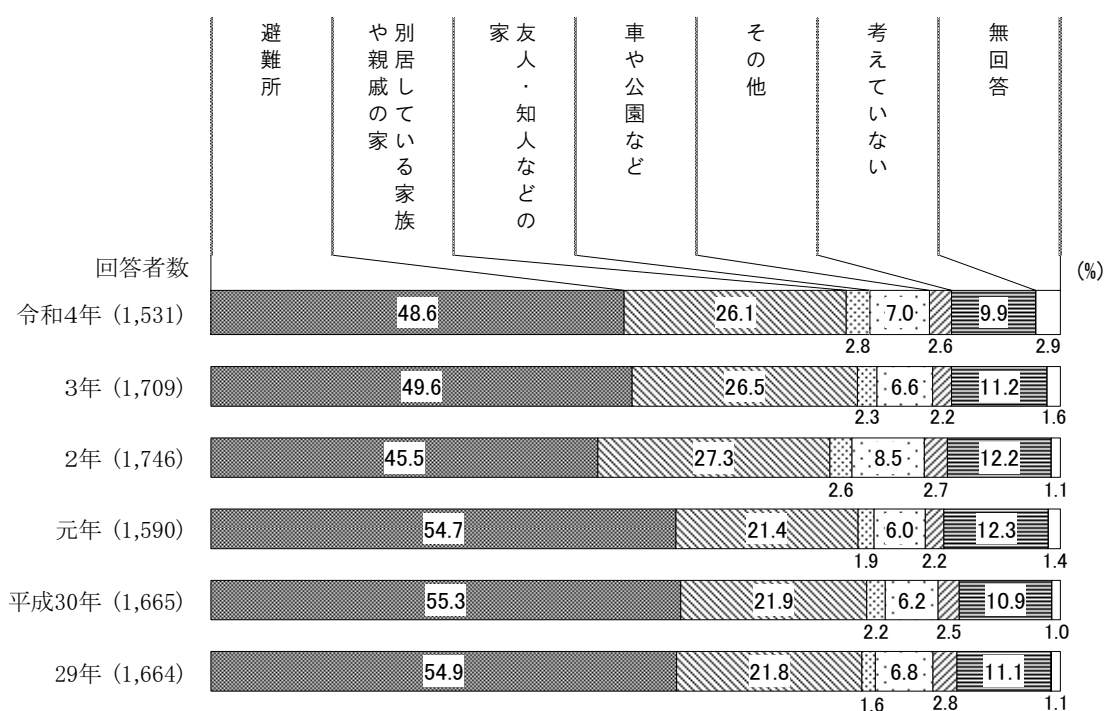
■「避難所」が5割弱で最も高いが、コロナ禍以前の3年間平均の5割台半ばに比べると低い

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が48.6%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(26.1%)となっている。

(イ) 経年でみると、前回の令和3年調査と比べると特に大きな違いはみられないが、コロナ禍以前の3年間と比べると、「避難所」は約6ポイント減少し、「別居している家族や親戚の家」が約5ポイント増加している。

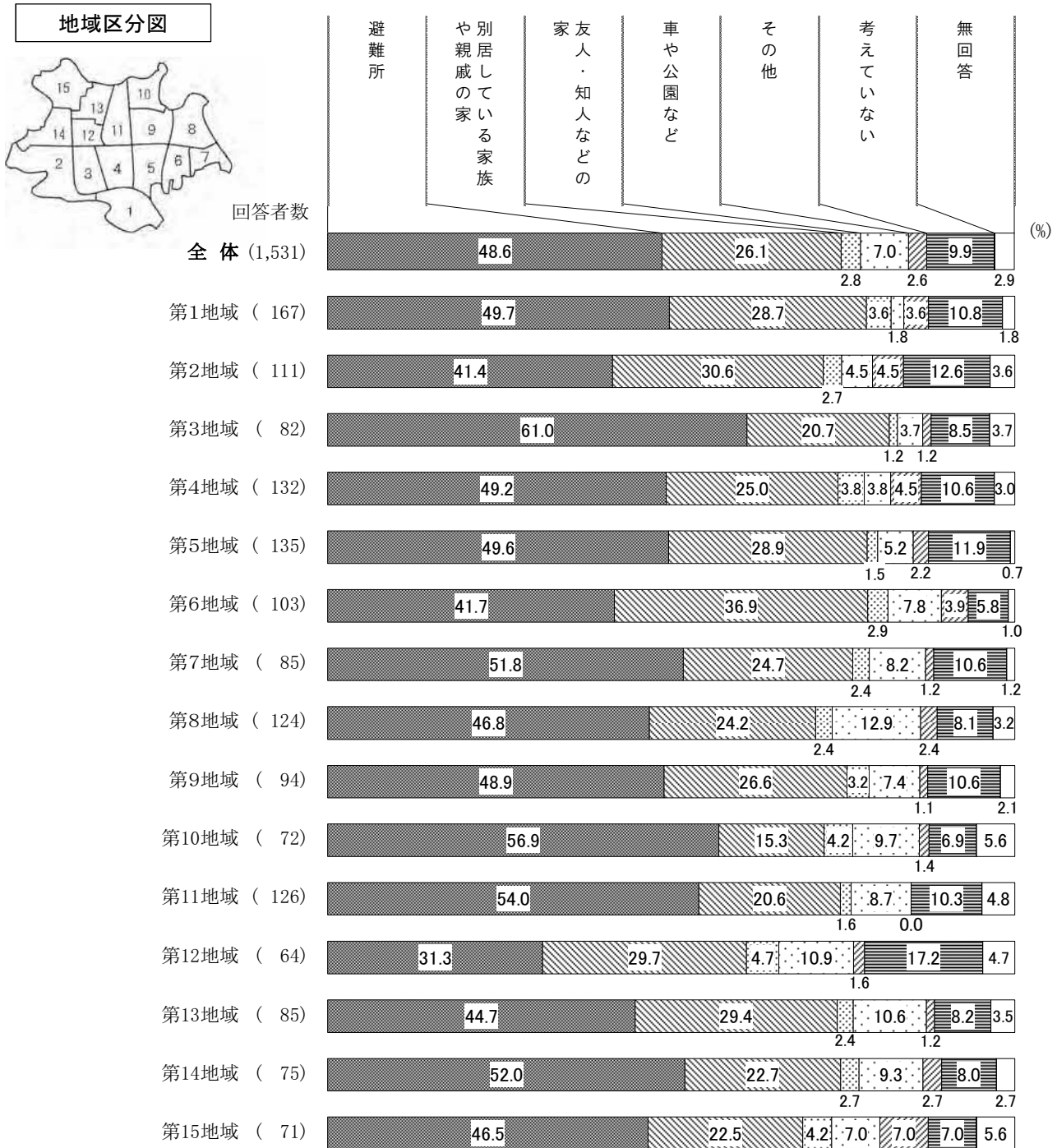
図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第3地域（61.0%）で最も高く、次いで第10地域（56.9%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第6地域（36.9%）、「車や公園など」は第8地域（12.9%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第12地域（17.2%）で最も高く、第6地域（5.8%）で最も低くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

問8 あなたが、大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

■ “ライフラインの確保” と “衛生対策の充実” が約6割で1位と2位

ア 単純集計・経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

(ア) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことを高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「ライフラインやエネルギーの確保」(59.0%)
- ② 「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(58.9%)
- ③ 「水・食料の備蓄の充実」(56.4%)

(イ) 経年でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」が前回の令和3年調査時の2位から、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」に代わって1位となったが、割合では大きな違いはみられない。多くの項目で前回調査より割合が減少しており、特に「災害時医療体制の充実」で5.4ポイントの減少となっている。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

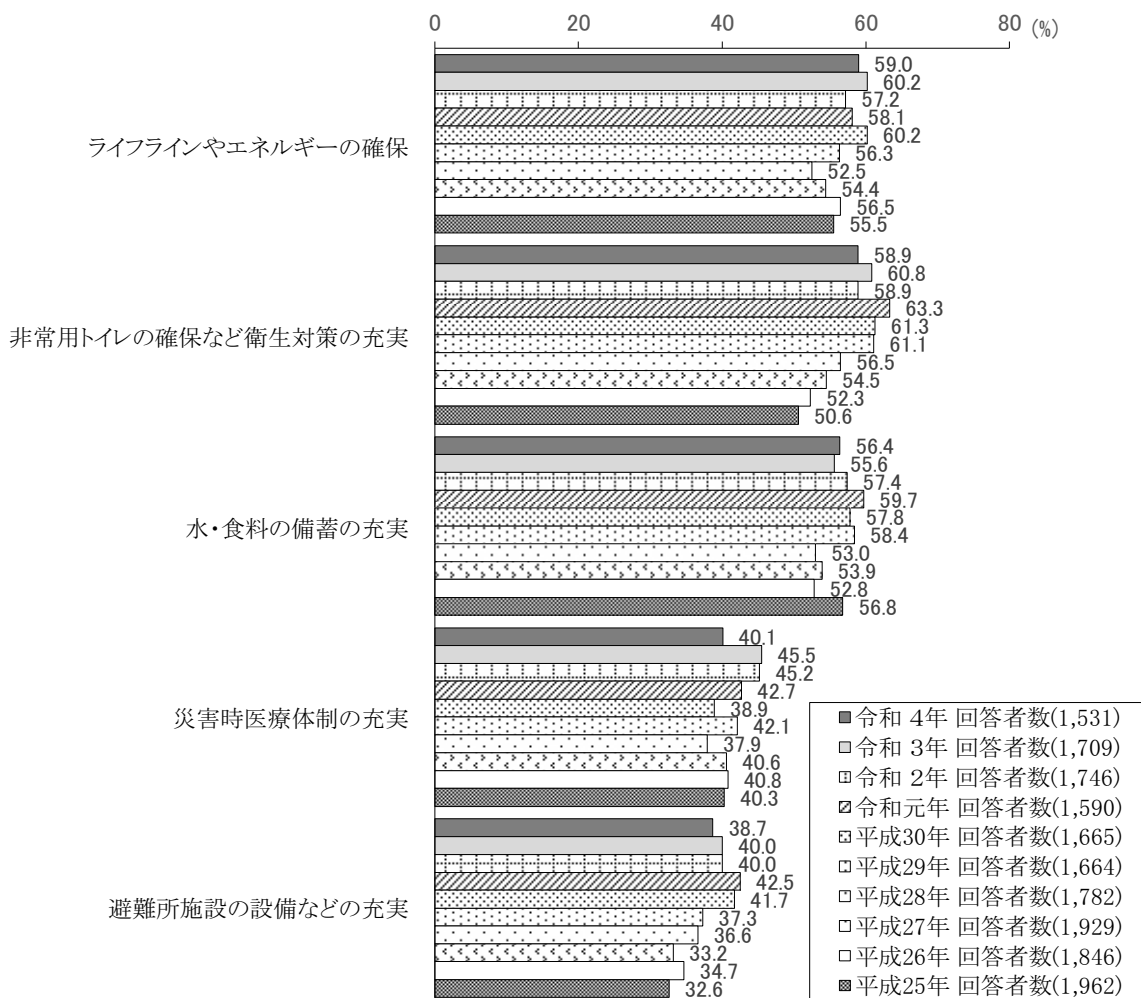




図2-10-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

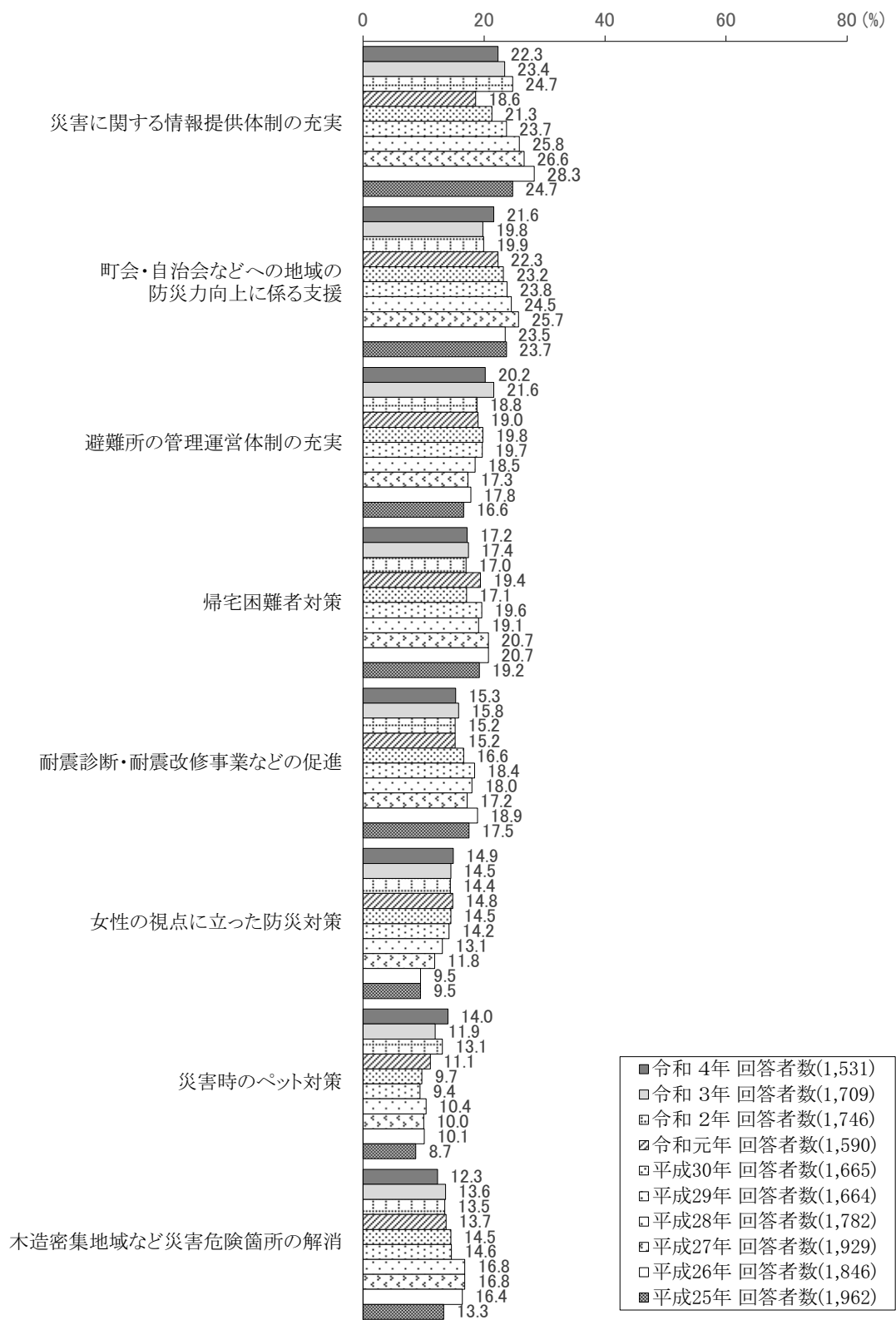
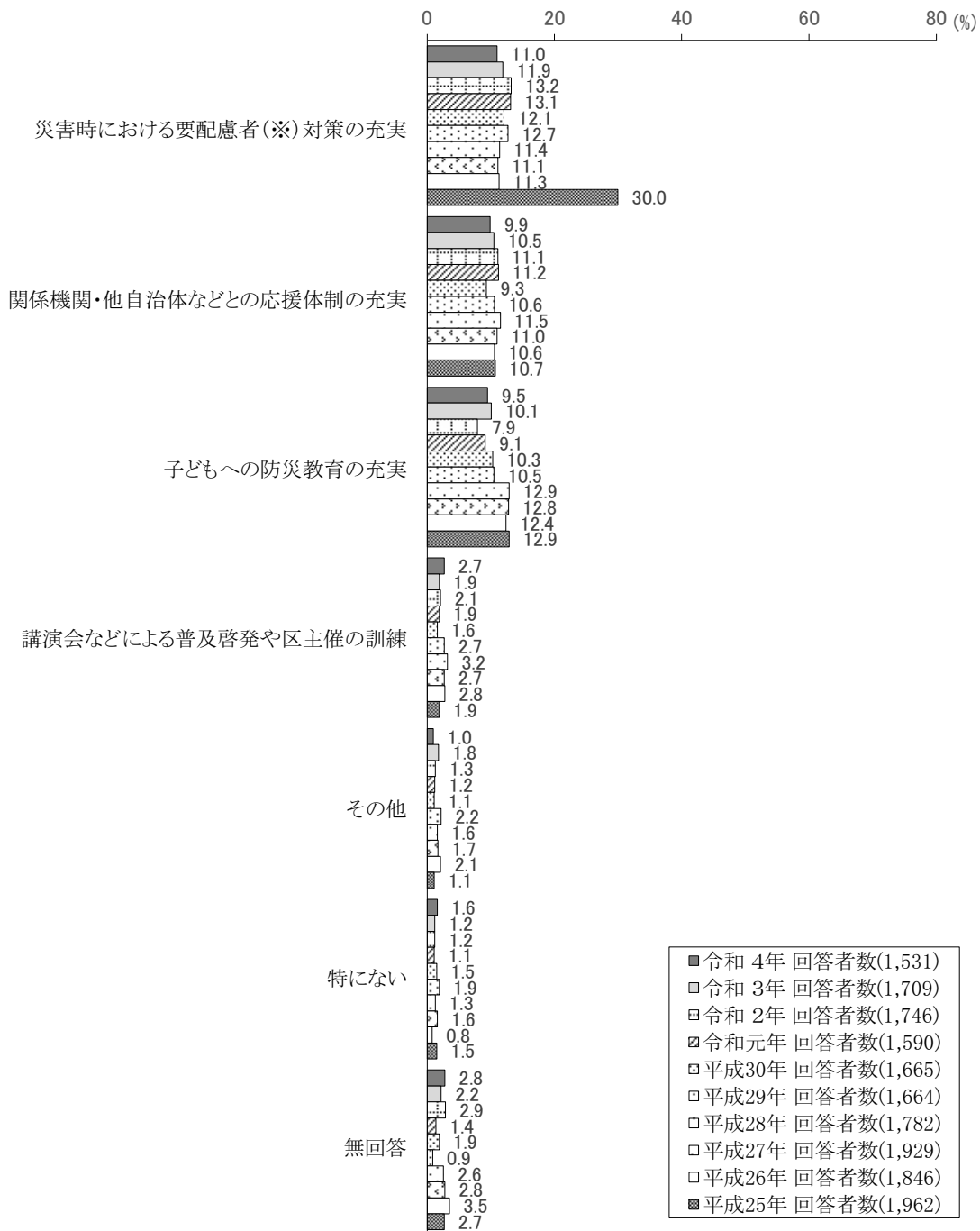


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

イ クロス集計・性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと  
（上位8項目）

（ア）性別でみたときに男性の方が高い項目

a 「ライフラインやエネルギーの確保」（+4.4ポイント）

b 「水・食料の備蓄の充実」（+5.3ポイント）

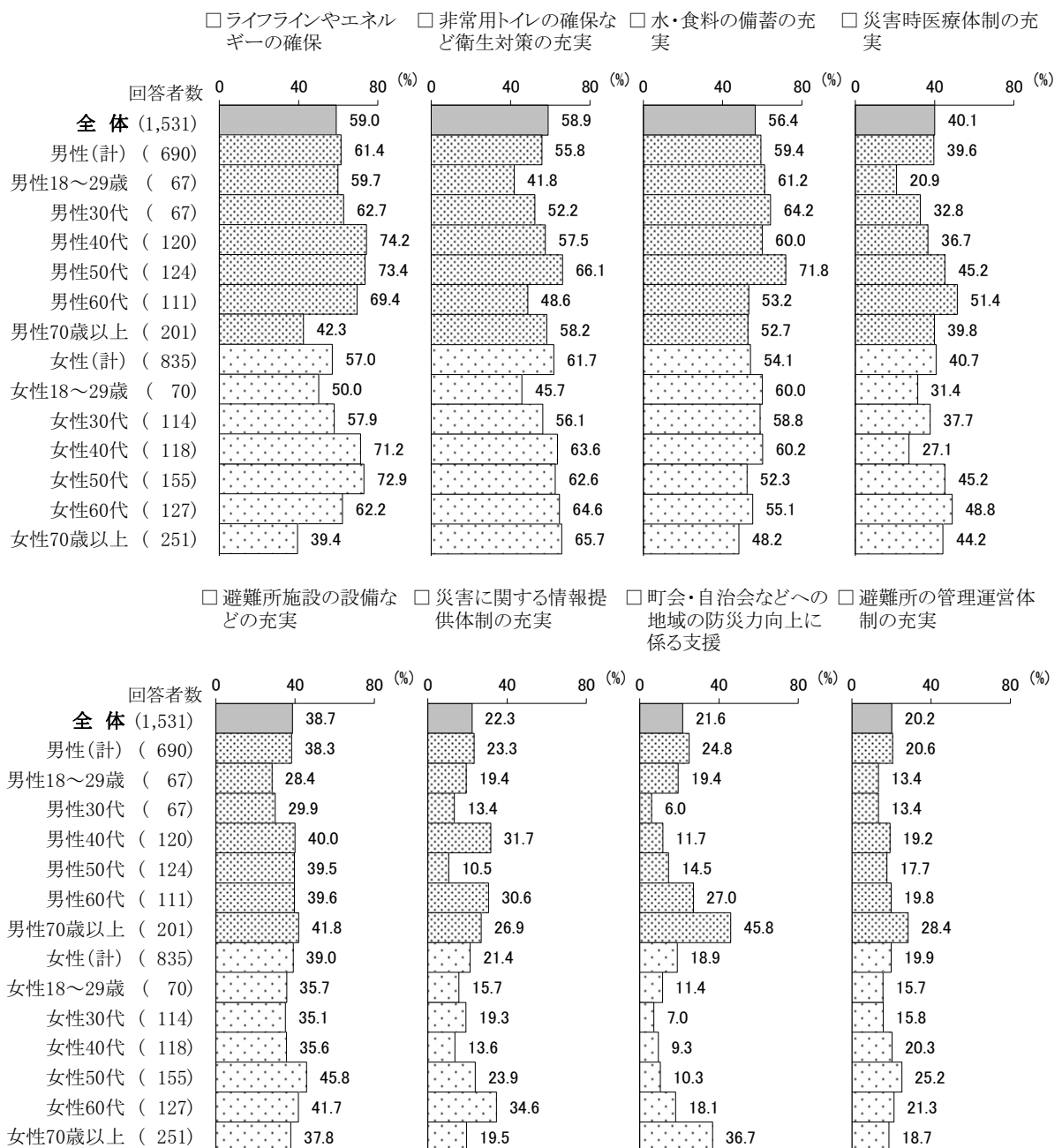
（イ）性別でみたときに女性の方が高い項目

a 「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（+5.9ポイント）

（ウ）性・年代別でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」は男女ともに40～50代で7割台と高く、逆に男女とも70歳以上で4割前後と低くなっている。「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は男性の50代、女性の40歳以上で6割台と高く、逆に男女とも18～29歳で4割台と低くなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと  
(上位8項目)

ライフステージ別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」は〈家族成熟期〉(76.5%)で最も高く、〈高齢期〉(49.9%)で5割弱と最も低くなっている。「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は、〈その他壮年期〉(63.6%)で最も高く、〈独身期〉(48.6%)で5割弱と最も低くなっている。また、「水・食料の備蓄の充実」は〈家族形成期〉(63.5%)で6割台半ばと最も高くなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと  
／上位8項目

